

岐阜県犯罪のない安全・安心まちづくり行動計画



地域安全シンボルマーク

令和5年度
岐 阜 県

目次

頁番号

第1章 行動計画の策定にあたって	2
1 行動計画策定の趣旨	2
2 行動計画の性格	3
第2章 岐阜県における治安の現状と県民意識について	4
1 治安の現状	4
2 県民等の意識	9
第3章 安全・安心まちづくりの目標と基本的施策	13
1 目標	13
2 各取組主体の具体的な取組目標	13
3 基本的施策の展開	15
4 行動計画の推進体制	17
第4章 安全・安心まちづくりの具体的な県の取組・施策	18
視点1 地域の連帯強化による安全・安心まちづくりの推進	18
(1) 県民一人ひとりの自主防犯意識の向上	18
(2) 自主的な防犯活動の支援及び促進	22
視点2 子ども、高齢者等の安全確保	26
(1) 子どもの安全確保	26
(2) 高齢者、障がい者の安全確保	44
(3) 女性の安全確保	48
視点3 地域コミュニティの再生	50
視点4 犯罪の防止に配慮した生活環境づくり	57
(1) 住宅の整備	57
(2) 道路等の整備	59
(3) 商業施設等の整備	61
(4) 自動車等、自販機の防犯対策	63

第1章 行動計画の策定にあたって

1 行動計画策定の趣旨

犯罪のない安全で安心な地域社会の実現は、県民すべての願いであり、県民生活や社会経済の発展の基盤となるものです。

しかしながら、地域を支える現役世代の減少と少子高齢化の進展、家族形態の多様化、地域で暮らす在住外国人の増加といった社会情勢の変化は、人々の価値観や生活様式を多様化させる一方で、地域社会の連帯意識や人間関係の希薄化、社会全体の規範意識の低下も懸念されています。

こうした中、犯罪のない安全で安心な地域社会を実現していくためには、行政の取組や警察活動だけでなく、県民一人ひとりが「自分の地域の安全は自分たちで守る」という意識を持って行動するとともに、地域で暮らす人々が積極的に地域の様々な活動に参画し、地域づくりにも配慮することで、互いに信頼し合い、協力して地域社会の連帯を深め、暮らしやすい生活環境づくりを進めていくことが必要です。

岐阜県では、犯罪の発生件数（刑法犯認知件数）が過去最多となる約5万2千件を記録した平成14年から「安全・安心まちづくり県民運動」を展開し、犯罪防止に向けた地域住民による自主的な取組が進められてきました。そしてこの取組を一層盛り上げるため、平成20年4月に「岐阜県犯罪のない安全・安心まちづくり条例（平成20年岐阜県条例第11号。以下「条例」という。）」を施行し、条例に基づいて策定した「岐阜県犯罪のない安全・安心まちづくり行動計画（以下「行動計画」という。）」を、犯罪情勢や経済情勢等の現状に即したものとするため毎年度見直ししながら、様々な施策を講じてきました。

この間、岐阜県における犯罪の発生件数は減少傾向が続き、令和4年は戦後最少を記録した令和3年に引き続き1万件を下回り、約9千7百件となりましたが、11年ぶりに増加に転じています。罪種別に見てみると、殺人や放火、強姦性交等を含む凶悪犯や、強制わいせつなどの風俗犯が減少する一方で、知能犯が大きく増加しており、ニセ電話詐欺の被害総額は、6年ぶりに4億円を超えるなど、県民の身近なところで発生する犯罪は後を絶たず、県民の安全で安心な暮らしを脅かしています。

こうした状況を踏まえ、引き続き、「安全で安心して暮らせる清流の国ぎふ」の実現に向けた具体的な施策を総合的かつ計画的に推進していくため、策定したものです。

2 行動計画の性格

本行動計画は、以下のような性格を有するものです。

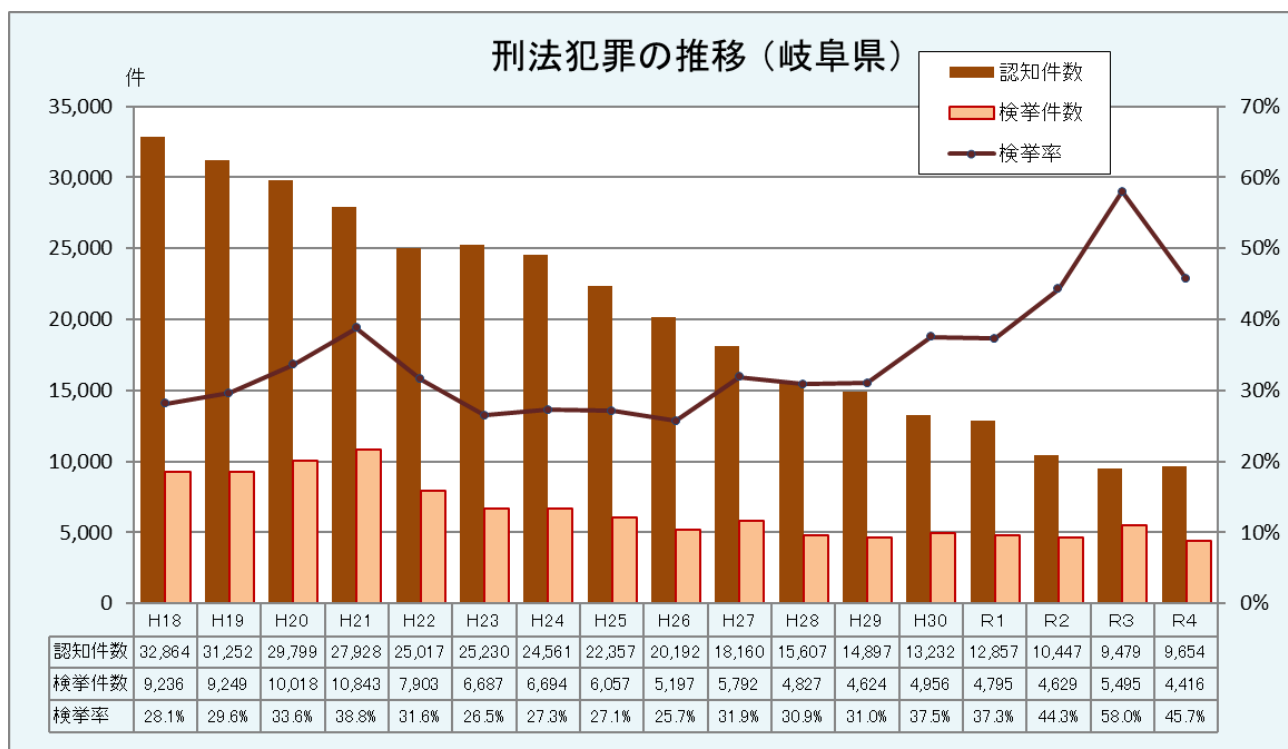
- (1) 犯罪のない安全・安心まちづくりの推進に関する基本的施策を示すもの
- (2) 地域防犯に携わる各主体（県民、事業者、自治会等・ボランティア団体等、行政（県・市町村）をいう。以下「県民等」という。）の具体的な取組目標を明らかにするもの
- (3) 地域防犯に関する県の取組について、毎年度、その進捗状況を検証し、見直すべき点は見直しながら、現状に即した施策を講じていくためのもの

第2章 岐阜県における治安の現状と県民意識について

1 治安の現状

岐阜県における刑法犯認知件数は、平成14年の51,956件をピークに減少傾向が続いていましたが、令和4年は前年より175件増加し9,654件と、11年ぶりに増加に転じました。

一方で、検挙率は、前年より12.3ポイント下降し45.7%となっています。



(統計値：岐阜県警察資料)

○刑法犯の罪種別の現況等

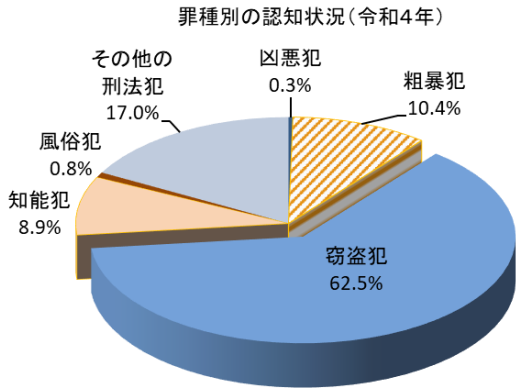
令和4年の岐阜県における刑法犯認知件数を罪種別に整理すると、窃盗犯が全体の約63%を占めています。

窃盗犯を手口別にみると、万引きが1,200件（構成比19.9%）で最も多く、次いで自転車盗が1,129件（同18.7%）となっています。

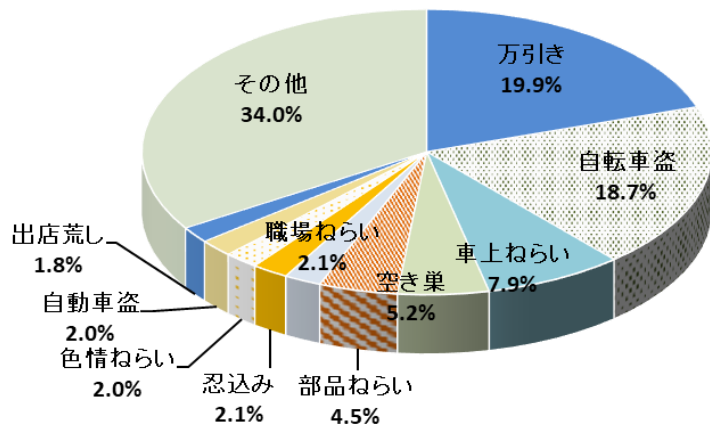
侵入盗では、空き巣、忍込みによる被害が多く、乗り物盗では、自転車盗、自動車盗が、非侵入盗では、万引き、車上ねらいによる被害が多くなっています。

※罪種別の刑法犯認知件数（令和4年）（統計値：岐阜県警察資料）

凶悪犯	殺人	強盗	放火	強制性交等				
32件	6件	10件	5件	11件				
粗暴犯	凶器準備集合	暴行	傷害	脅迫	恐喝			
1,007件	0件	707件	228件	56件	16件			
窃盗犯	侵入盗	乗り物盗	非侵入盗					
6,034件	976件	1,281件	3,777件					
知能犯	詐欺	横領	偽造	汚職	あっせん利得等	背任		
857件	779件	36件	41件	1件	0件	0件		
風俗犯	賭博	強制わいせつ	公然わいせつ	わいせつ物				
78件	7件	31件	19件	21件				
その他の刑法犯	占有離脱物横領	公務執行妨害	住居侵入	逮捕監禁	略取誘拐等	盗品	器物損壊	その他
1,646件	167件	26件	221件	2件	3件	9件	1,154件	64件
合計								
9,654件								

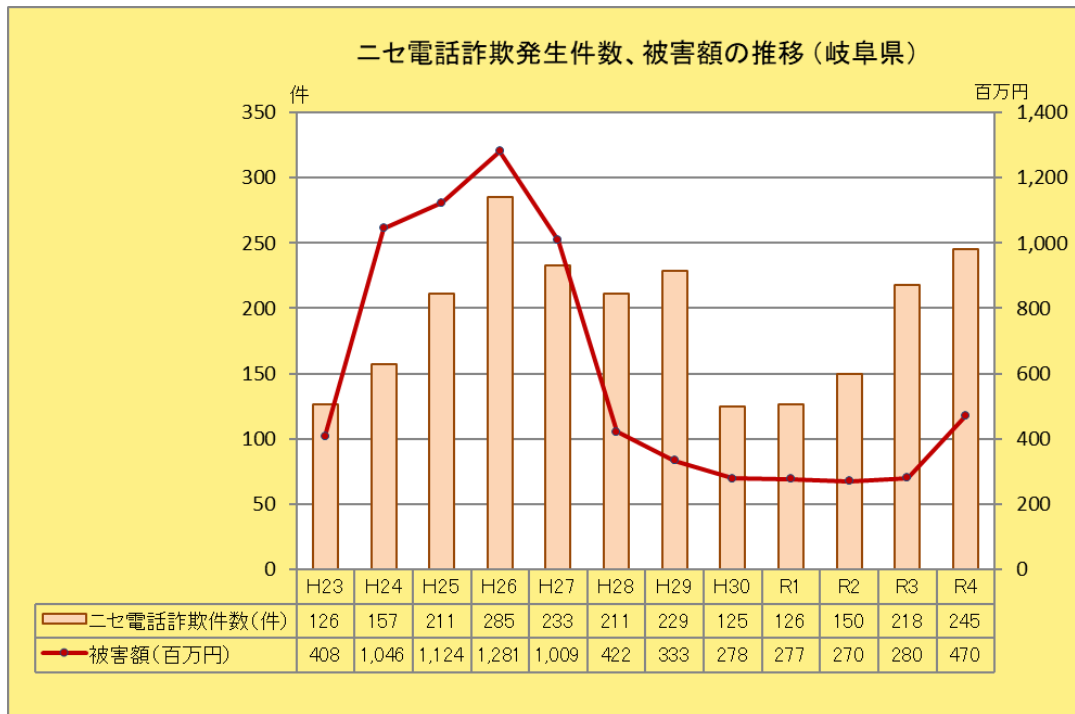


窃盗犯の手口別認知状況（令和4年）



○ニセ電話詐欺の状況

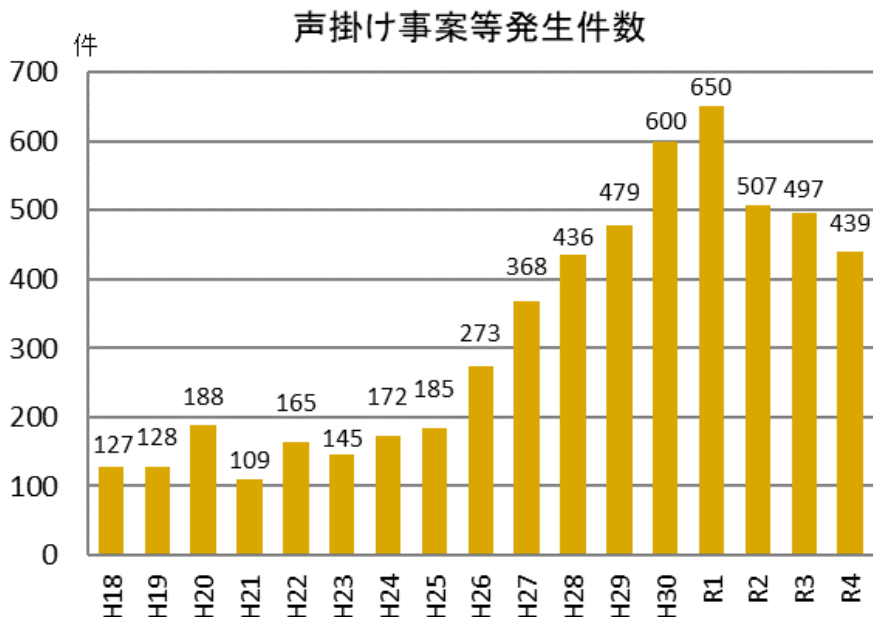
ニセ電話詐欺は、令和4年中に245件（前年比27件増）発生し、被害総額は約4億6,910万円と6年ぶりに4億円を超え、高齢者を中心として多くの被害が発生しています。



(統計値：岐阜県警察資料)

○子どもに対する声掛け事案等の発生状況

中学生以下の子どもに対する声掛け事案等（犯罪被害には至らないが、その前兆としてとらえられる声掛け、その他子どもに不安を覚えさせるような言動があり、警察が認知した事案）は、令和4年中に439件（前年比-58件）発生しました。傾向として女子小・中学生に対するもの、下校時間帯（15時～18時）、路上での発生が多くなっています。



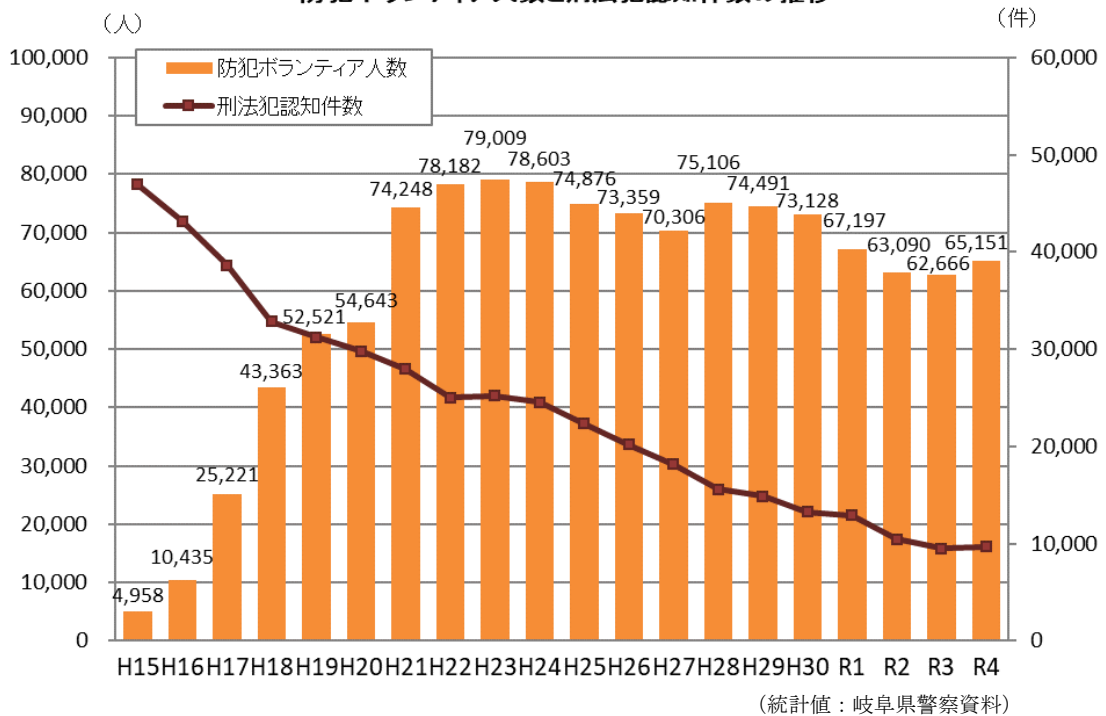
(統計値：岐阜県警察資料)

○防犯ボランティア人数の推移と犯罪情勢

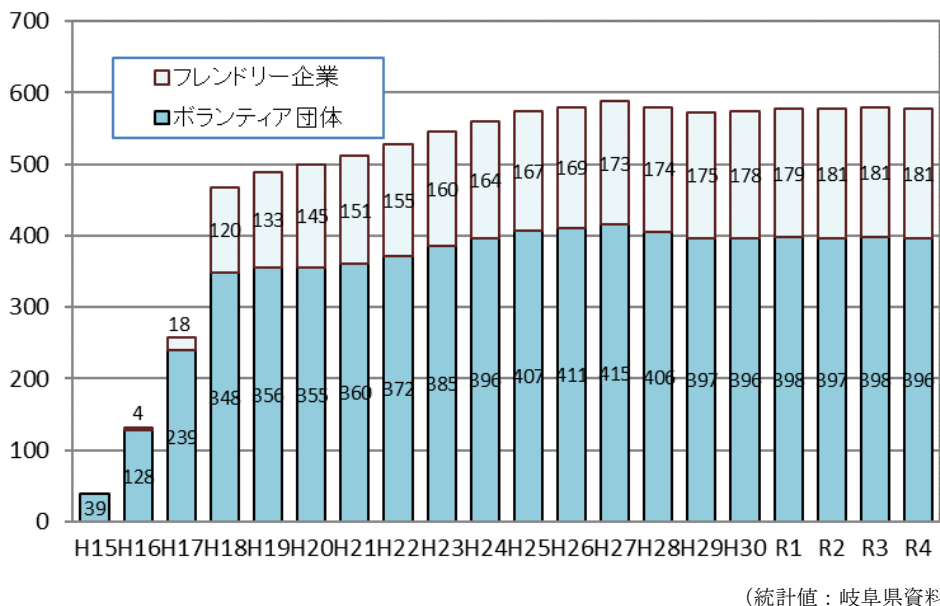
県内の防犯ボランティア人数は、平成16年以降急増し、平成23年には7万9千人に達しました。刑法犯認知件数の大幅な減少は、刑法犯の大部分を占める窃盗犯が大きく減ったことが主な要因であり、地域の防犯ボランティア活動の急速な広がりと共に県民の防犯意識の向上によるところが大きいと考えられます。

しかしながら、多くの防犯ボランティア団体は後継者不足、メンバーの高齢化等の課題を抱えており、近年、防犯ボランティア人数は減少傾向にあることから、今後の地域防犯活動の担い手育成と活性化に効果的な対策を講じていくことが必要です。

防犯ボランティア人数と刑法犯認知件数の推移



岐阜県安全・安心まちづくりボランティア団体・フレンドリー企業累計登録数の推移



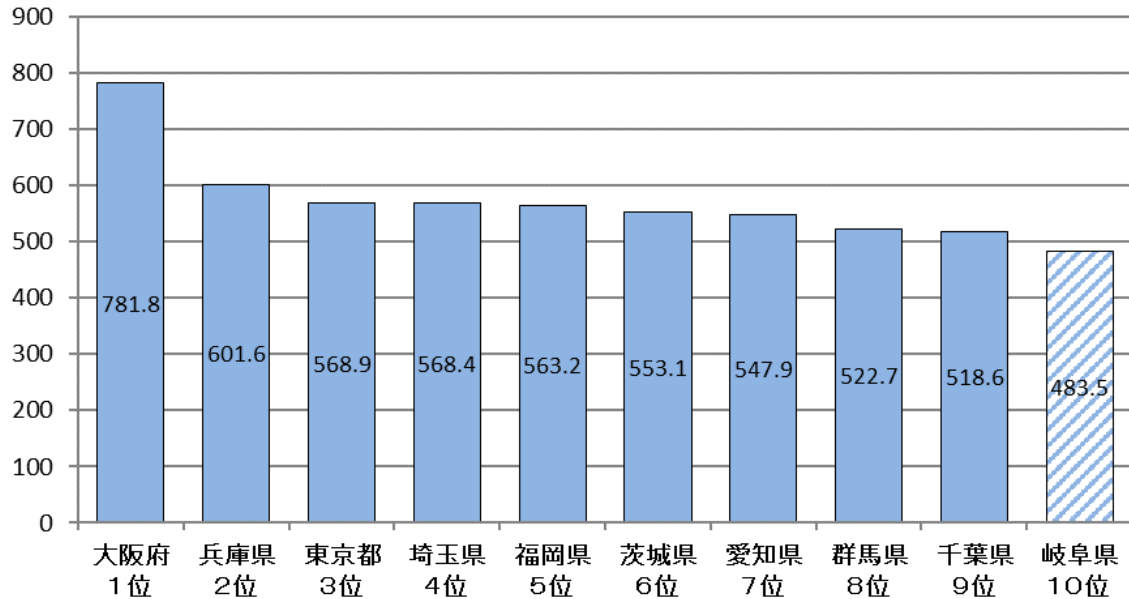
○全国からみた岐阜県の犯罪状況

令和4年中の岐阜県の人口10万人当たりの刑法犯認知件数は483.5件で、全国で上位から10番目となっています。

窃盗犯の手口別で見ると、空き巣の犯罪率が高い順で全国3位となっているほか、車上ねらい（同4位）、忍込み（同8位）、自動車盗（同9位）など、非常に高い水準で発生しており、被害防止に向けた取組が必要です。

犯 罪 率（刑法犯総数）

※令和4年中の人口10万人あたりの刑法犯認知件数



（統計値：警察庁資料）

～ 窃盗犯＜手口別＞犯罪率でみる岐阜県の位置（令和4年中）～

◆空き巣

順位	都道府県	犯罪率
1	茨城県	26.1
2	群馬県	18.9
3	岐阜県	15.6
4	栃木県	14.9
5	宮城県	13.2
6	福岡県	12.9
7	高知県	12.3
8	千葉県	12.2
9	福島県	11.7
10	埼玉県	11.4

◆車上ねらい

順位	都道府県	犯罪率
1	大阪府	44.5
2	茨城県	28.2
3	栃木県	24.2
4	岐阜県	23.8
5	群馬県	23.2
6	愛知県	23.1
7	兵庫県	23.0
8	千葉県	22.9
9	福井県	20.8
10	三重県	20.8

◆忍込み

順位	都道府県	犯罪率
1	宮城県	8.6
2	栃木県	8.0
3	群馬県	7.8
4	茨城県	7.6
5	佐賀県	6.9
6	岡山県	6.9
7	山梨県	6.4
8	岐阜県	6.3
9	千葉県	5.8
10	埼玉県	5.8

◆自動車盗

順位	都道府県	犯罪率
1	茨城県	20.3
2	栃木県	17.0
3	群馬県	12.0
4	愛知県	11.7
5	千葉県	9.9
6	埼玉県	8.2
7	大阪府	7.4
8	富山県	6.0
9	岐阜県	5.9
10	三重県	5.9

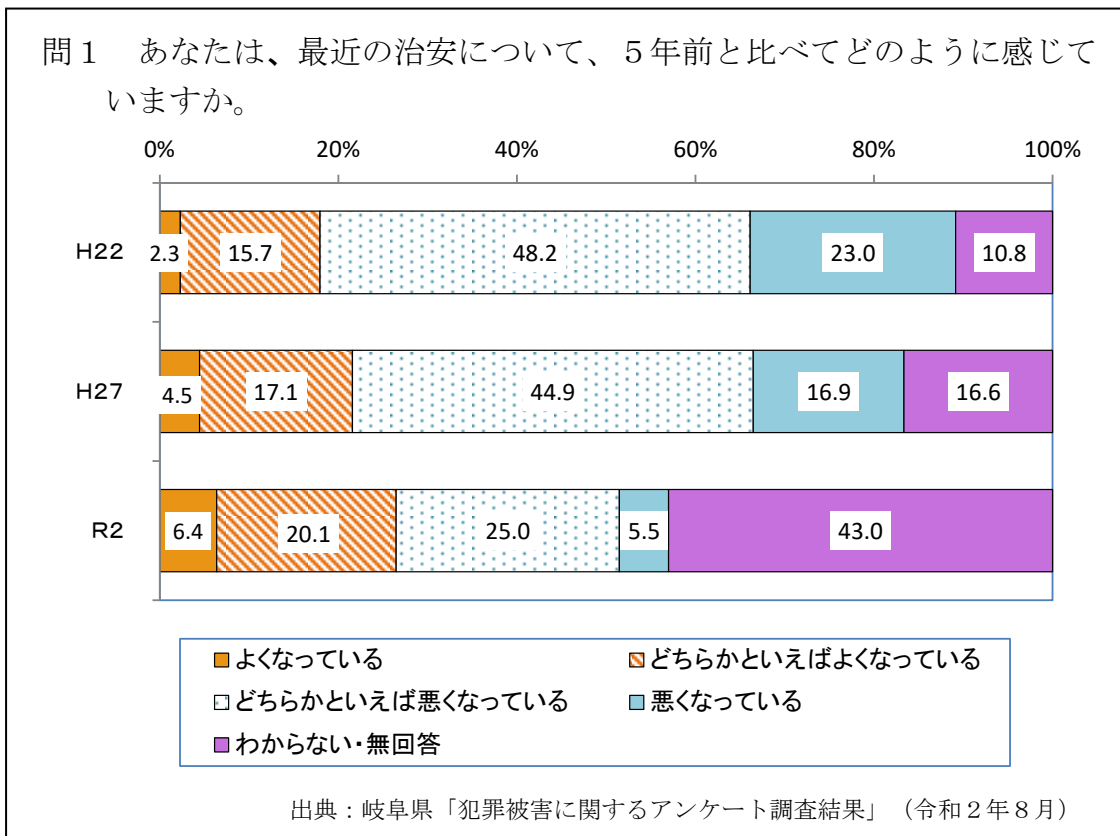
（統計値：警察庁資料）

※犯罪率とは、人口あたりの刑法犯認知件数を算出したもので、犯罪の遭いやすさを表しています。
 上の表は、人口10万人あたりの認知件数を算出したものです。
 人口は令和4年1月の住民基本台帳に基づきます。

2 県民等の意識

県が実施した「犯罪被害に関するアンケート」では、県民の治安に対する意識や不安を感じる犯罪被害、防犯意識、犯罪被害者等の置かれている状況への理解などについて調査しています。

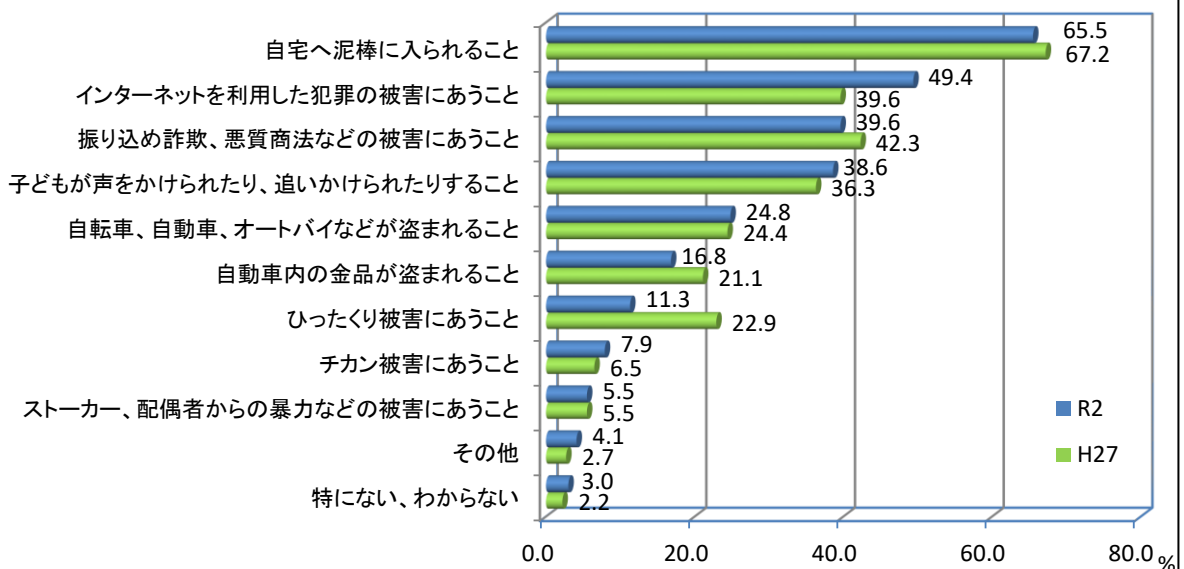
令和2年8月の調査では、最近の治安を5年前と比べてどのように感じているかについて、「よくなっている」、「どちらかといえばよくなっている」と答えた人は合わせて26.5%と年々増加しています。また、「悪くなっている」、「どちらかといえば悪くなっている」と答えた人が30.5%と激減している一方で、「わからない・無回答」と答えた人が43.0%と大幅に増加しています。理由として、5年前と比べて、治安が保たれていると感じる方が増加した、あるいは、身近で犯罪情報に触れる機会がなく治安に対する関心の無い方が増加したことが考えられます。



また、身近な犯罪被害のうちどのようなものに対して不安を感じているのかについての質問では、「自宅へ泥棒に入られること」（65.5%）と答えた人の割合が最も高く、次いで、「インターネットを利用した犯罪の被害にあうこと」（49.4%）、「振り込め詐欺、悪質商法などの被害にあうこと」（39.6%）、「子どもが声をかけられたり、追いかけられたりすること」（38.6%）の順となっています。

インターネットを利用した犯罪に対する不安が前回と比べて増加しており、インターネット機器やSNSなどの利用者が拡大する一方で、利用者の知識やモラルに対して不安を抱く人が多いと考えられます。

問2 あなたは、次の身近な犯罪被害のうち、どのようなものに対して不安を感じていますか。主なものをあげてください。（3つまで）



出典：岐阜県「犯罪被害に関するアンケート調査結果（令和2年8月、平成27年1月）」

○ インターネットの利用に関して、令和4年中にサイバー関連で岐阜県警察に寄せられた相談件数は、2,291件（前年比+346件）となっています。

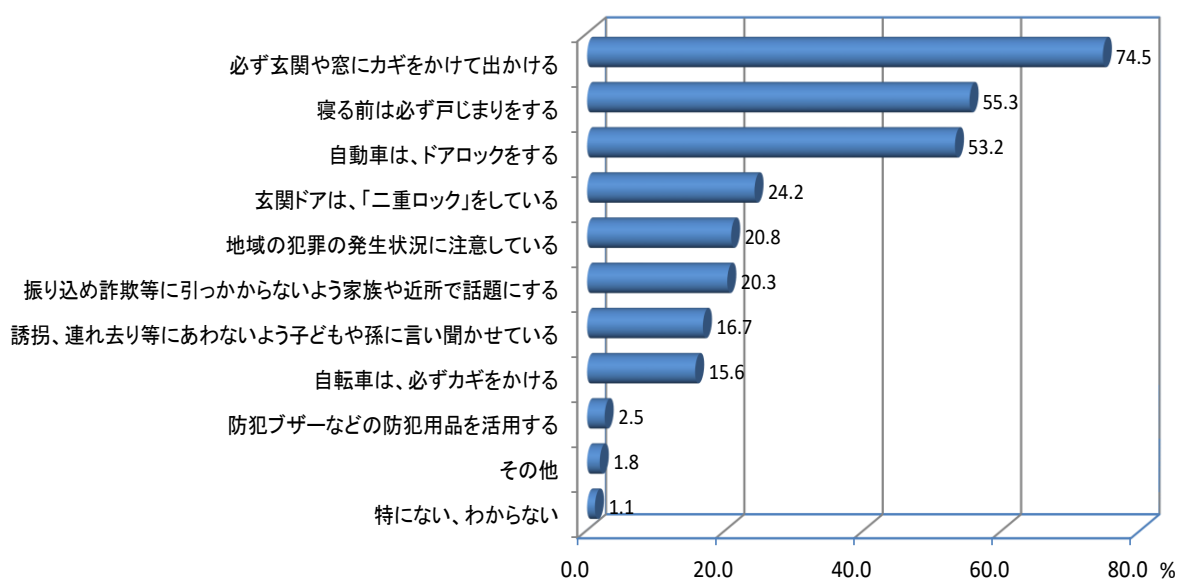
相談内容で多いものは、詐欺・悪質商法等に関するもの、不正アクセスによる被害、ネットワーク・セキュリティに関するもの、違法有害なホームページ・掲示板等の通報、取締り要望に関するもので、全体の約6割を占めています。

これに対し、犯罪被害にあわないように、日頃からどのようなことを心がけているかについての質問では、「必ず玄関や窓にカギをかけて出かける」

(74.5%)と答えた人の割合が最も高く、次いで、「寝る前は必ず戸じまりをする」(55.3%)、「自動車は、ドアロックをする」(53.2%)の順となっています。

このことから、住まいに関する防犯意識は比較的高いものの、犯罪被害にあわないように意識・行動している人は十分とは言えない状況にあることがうかがえます。

問3 あなたは、犯罪被害にあわないように、日頃からどのようなことを心がけていますか。主なものをあげてください。(3つまで)

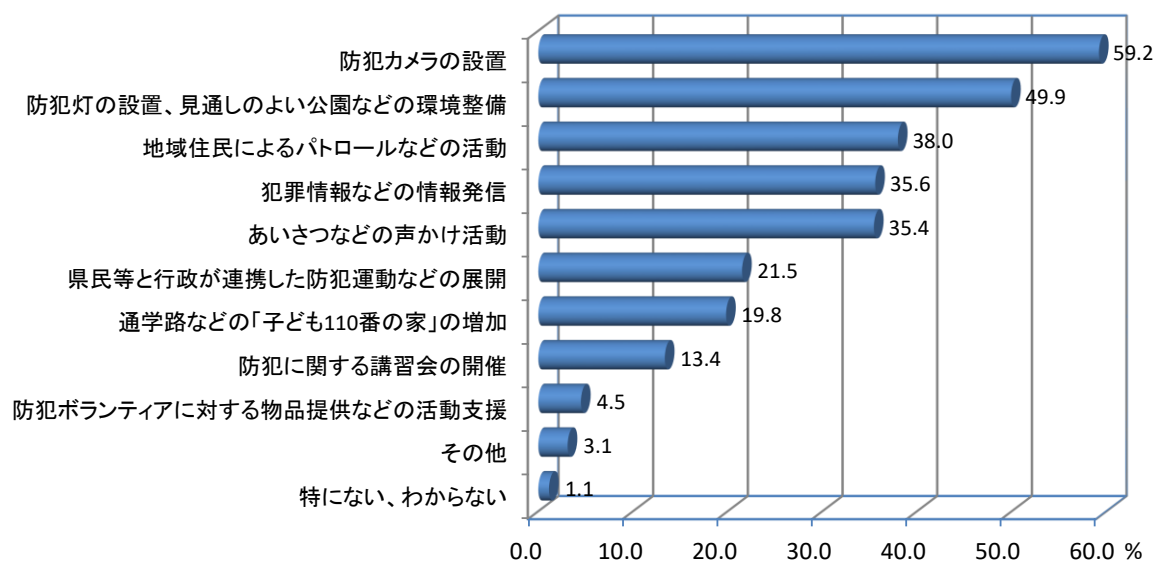


出典：岐阜県「犯罪被害に関するアンケート調査結果（令和2年8月）」

さらに、安全で安心な地域社会をつくるために、どのような取組が効果的であるかについての質問では、「防犯カメラの設置」(59.2%)と答えた人の割合が最も高く、以下、「防犯灯の設置や、見通しのよい公園・防犯面に配慮した住宅街などの環境整備」(49.9%)、「地域住民によるパトロールなどの活動」(38.0%)、「犯罪情報などの情報発信」(35.6%)の順となっています。

このことから、防犯カメラや防犯灯の設置などのハード面の環境整備とともに、地域住民の自主的なパトロール活動や犯罪情報の共有といったソフト面の取組が求められていることがわかります。

問4 あなたは、安全で安心な地域社会をつくるために、どのような取組が効果的だと思いますか。主なものをあげてください。(3つまで)



出典：岐阜県「犯罪被害に関するアンケート調査結果（令和2年8月）」

第3章 安全・安心まちづくりの目標と基本的施策

1 目標

犯罪のない安全・安心まちづくりを推進し、安心して暮らせる岐阜県を目指します。

犯罪のない安全で安心な地域社会の実現を図るため、条例の基本理念の通り、県民等による自主的な防犯活動並びに犯罪の防止に配慮した生活環境づくりを促進し、地域の防犯力を高め、安心して暮らせる岐阜県づくりを推進します。

岐阜県犯罪のない安全・安心まちづくり条例の概要

目的

- ① 県民等による犯罪の防止のための自主的な活動を促進する。
- ② 犯罪の防止に配慮した生活環境を整備するための基本的な事項を定める。

基本理念

- ① 「地域の安全は地域で守る」という意識に支えられた県民等による犯罪の防止のための自主的な活動を尊重すること。
- ② 県、市町村及び県民等が適切に役割を分担し、互いに連携し、及び協力すること。
- ③ 乳幼児、児童、生徒、高齢者その他の犯罪の防止に配慮を要する者の安全確保に特に配慮すること。
- ④ 県民等が互いに守り合い、支え合う地域社会が形成されること。

2 各取組主体の具体的な取組目標

各取組主体が適切に役割分担をし、相互につながり、支え合うためにも、それぞれの具体的な取組目標を明らかにします。

県民の取組目標

- 県民は、安全・安心まちづくりについての理解を深めるとともに、日常生活において自らの安全を確保するため、自分の行動に気をつける。
- 地域の安全は地域で守るという意識をもって、地域での諸活動に参加するとともに、県や市町村等が実施する安全・安心まちづくりに関する施策に協力する。

自治会等の取組目標

- 自治会その他の地域的な共同活動を行う団体（以下「自治会等」という。）は、安全・安心まちづくりについての理解を深めるとともに、安全・安心まちづくりに関する活動を主体的に行う。
- 県や市町村等が実施する安全・安心まちづくりに関する施策に協力する。

ボランティア団体等の取組目標

- 安全・安心まちづくりに関するボランティア活動を行う任意団体、公益法人、NPO法人など（以下「ボランティア団体等」という。）は、自らのボランティア活動を積極的に行う。
- 県や市町村等が実施する安全・安心まちづくりに関する施策に協力する。

事業者の取組目標

- 所有・管理する営業施設や事業活動において、犯罪の被害に遭わないような環境づくりを行う。
- 地域の一員として、地域の安全は地域で守るとの意識をもって、地域の諸活動に参加するとともに、従業員が安全・安心まちづくりに関する活動に参加しやすい環境づくりを行う。
- 県や市町村等が行う安全・安心まちづくりに関する施策に協力する。

学校の取組目標

- 保護者、地域住民、行政及び警察と協力して、児童・生徒が犯罪に遭わないための教育、犯罪を起こさないための教育の充実を図る。
- 防犯指針に基づき、学校内及び通学路等における児童・生徒の安全確保のための措置を講ずる。

市町村の取組目標

- 地域住民による自主的な防犯活動を積極的に支援する。
- 学校、住民、事業者及び県等と協力し、地域の実情に即した安全・安心まちづくりに関する施策を推進する。

県の取組目標

- 国・市町村及び県民等と連携し、県民等による自主的な防犯活動の促進、犯罪の機会を減らす生活環境づくりの推進など、犯罪のない安全・安心まちづくりに関する総合的な施策を策定し、実施する。
- 市町村の安全・安心まちづくりに関する施策の実施に関し、情報の提供その他の必要な支援を行う。

3 基本的施策の展開

各取組主体が上記の具体的な取組目標に向かっていくとともに、それぞれが相互につながり、支え合い、各種の安全・安心まちづくりに関する具体的な施策を展開していくために、次の4つの事項を基本として県の取組を行っていきます。

あわせて、各視点において、県民、自治会等、ボランティア団体等及び事業者者に具体的に行動していただきたい取組事項を示し、施策の効果的な推進を図っていきます。

視点1 地域の連帯強化による安全・安心まちづくりの推進

県民等の犯罪被害の防止が図られるよう、県民一人ひとりの防犯意識を高めるとともに、県内各地で行われている県民等による自主的な防犯活動が今後とも継続され地域の安全が図られるよう、防犯に関わる様々な主体の適切な役割分担と連携・協力を図ります。

- 県民は、日頃から犯罪の発生状況や防犯活動に関する情報に関心を持つとともに、行政等が発信する情報等を通じて知識と理解を深め、個人や家庭での防犯意識を高め、自主的な防犯活動に努めていくことが大切です。
- 自治会等及びボランティア団体等は、「自分の地域の安全は自分たちで守る」という意識を持ち、地域の実情に応じて、自主的な防犯組織を結成し、その活動の推進に努めていくことが大切です。
- 事業者は、地域の一員として、地域の安全は地域で守るとの意識をもって、地域の諸活動に参加するとともに、従業員が安全・安心まちづくりに関する活動に参加しやすい環境づくりを行っていくことが大切です。

また、その所有・管理する営業施設や事業活動において、犯罪の被害に遭わない環境づくりに努めるとともに、管理職や従業員に対する防犯教育等を通じて、社員の防犯意識を高め、自主的な防犯活動に努めていくことが大切です。

視点2 子ども、高齢者等の安全確保

子どもや高齢者、障がい者、女性など特に犯罪の防止に配慮を要する人について、被害防止等の取組を進めるとともに、地域住民が連携し、地域全体で子どもや高齢者、障がい者等を見守る活動の促進を図ります。

- 県民、自治会等、ボランティア団体等及び事業者は、学校を中心として取り組まれる子どもの安全に関する見守り活動や防犯教育などへの積極的な参加を通じて、地域で子どもの安全を確保していくことが大切です。

あわせて、日頃から犯罪の発生状況や防犯活動に関する情報に関心を持つとともに、行政等が発信する情報等を通じて知識と理解を深め、地域で高齢者、障がい者等を見守る活動に努めていくことが大切です。

視点3 地域コミュニティの再生

自主的な防犯活動ばかりではなく、地域の実情に応じて行われる様々な地域共同活動を通して、地域の絆づくりに関する取り組みが地域ぐるみで進められるよう支援を行うことで、地域の連帯を深め、地域コミュニティの再生を図ります。

- 県民、自治会等、ボランティア団体等及び事業者は、地域の一員として、地域の親睦活動（まつりやスポーツ大会、サークル活動など）や生活環境の美化活動などの地域共同活動を通じて、地域コミュニティを再生することで、人と人とのつながり、顔の見える近所づきあいができるように努めていくことが大切です。

視点4 犯罪の防止に配慮した生活環境づくり

県民等による自主的な防犯活動の促進とともに、犯罪の防止に配慮した生活環境づくりが重要であることから、防犯指針を踏まえた施設や設備などの生活環境整備の促進を図ります。

- 県民、自治会等及びボランティア団体等は、日頃から犯罪の発生状況や防犯活動に関する情報に関心を持つとともに、行政等が発信する情報等を通じて知識と理解を深め、個人や家庭での防犯意識を高め、住宅の防犯対策に努めていくことが大切です。
- 県民、自治会等及びボランティア団体等は、日頃から犯罪の発生状況や防犯活動に関する情報に関心を持つとともに、行政等が発信する情報等を通じて知識と理解を深め、個人や家庭での防犯意識を高め、自動車や原動機付自転車、自転車（以下「自動車等」という。）の防犯対策に努めていくことが大切です。
- 事業者は、次のような行動に取り組むことが大切です。

- ・「犯罪の防止に配慮した住宅の構造、設備等に関する指針」等を活用して、県民が安全で安心して暮らせる住宅の供給に努めること。
- ・「犯罪の防止に配慮した施設の構造、設備等に関する指針」等を活用して、県民が安全で安心して買い物などができる商業施設の提供に努めること。
- ・県民が安全で安心して利用できる自動車等及び防犯対策機器等の普及に努めること。
- ・自動販売機の設置者、管理者に対し、犯罪の防止に配慮した設備を有する自動販売機の設置を促進するとともに、つり銭などの適正な管理など必要な措置を講じるよう普及していくこと。

4 行動計画の推進体制

県における犯罪のない安全・安心まちづくりを推進するため、知事部局、教育委員会、警察本部の関係課で構成する「岐阜県安全・安心まちづくり庁内連絡会議」、県と市町村が連携して施策の推進を図る「市町村連絡会議」等を活用して、行動計画の着実な実現を図っていきます。

それとともに、有識者で構成されている「岐阜県安全・安心まちづくり懇談会」において、行動計画の毎年の進捗状況を管理し、県に対して更に強化すべき施策、見直しすべき施策についての意見・提案をしていきます。

あわせて、地域防犯に取り組む各主体の関係者の情報交換、相互連携を図り、自主的な防犯の取組を促進していく「安全・安心まちづくり地域連携会議」の場を活用して、施策の着実な推進を図るとともに、現場の声を取り入れながら、行動計画の必要な見直しを行っていきます。

第4章 安全・安心まちづくりの具体的な県の取組・施策

視点1 地域の連帯強化による安全・安心まちづくりの推進

(1) 県民一人ひとりの自主防犯意識の向上

【取組の方向】

県民一人ひとりの「自分の安全は自分で守る」「家庭の安全は家庭で守る」という防犯意識の高揚を図る。

県民の地域で発生している空き巣やニセ電話詐欺、放火などといった犯罪被害を防ぐためには、県民一人ひとりが自分の地域で発生している犯罪の発生状況や、自分でできる防犯対策に関心を持ち、「自分の安全は自分で守る」「家庭の安全は家庭で守る」という防犯意識を高め、日常生活において、犯罪に遭わないための自主的な活動が行われることが大切です。

このため、県民に対する情報提供や啓発活動を進めていきます。

ア 自主防犯意識の高揚

県民の自主防犯意識の高揚を図るため、安全・安心まちづくりに係る広報啓発の充実を図っていきます。

また、県民一人ひとりの防犯意識を個人の防犯対策や地域における防犯活動につなげるために、防犯関係の専門家の指導・助言をあおげるような取組を進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
「地域安全の日」の普及促進 (毎月20日)	地域安全に対する県民等の意識を高め、積極的な地域安全活動を展開するために定められた「地域安全の日」に、自治体及び(公財)岐阜県防犯協会等と連携を図りながら、県内各地で活動を行う。	—	継続実施	「地域安全の日」を通じて、県民等の自主防犯意識の高揚と地域安全活動の活性化を図る。	生活安全総務課
			継続実施		
全国地域安全運動の普及促進 (10月11日～20日)	地域安全に対する県民等の意識を高め、積極的な地域安全活動を展開するための重点的広報啓発期間の1つに「全国地域安全運動」を定め、(公財)岐阜県防犯協会と連携を図りながら、県内各地で活動を行う。	—	継続実施	全国地域安全運動を通じて、県民等の自主防犯意識の高揚と地域安全活動の活性化を図る。	県民生活課 生活安全総務課
			継続実施		

【視点1】

安全・安心まちづくり県民大会の開催	地域安全に対する県民等の意識を高め、積極的な地域安全活動を展開するために、「全国地域安全運動」の期間中に(公財)岐阜県防犯協会と共同で、県民大会を開催する。	参加人数	令和4年 約170人	県民大会を開催し、全国地域安全運動の盛り上がりを図るとともに県民等の自主防犯意識の高揚と地域安全活動の活性化を図る。	県民生活課 生活安全総務課
			令和3年 開催中止		
安全・安心まちづくり賞の表彰	県に登録された「安全・安心まちづくりボランティア」や「安全・安心まちづくりフレンドリー企業」の中で、活動が盛んで優れている団体や事業者に対し、表彰を行う。	表彰数	令和4年 10団体	表彰を通して、優れた取組を広く県民等に紹介していく。	県民生活課
			令和3年 7団体		
防犯功労者、防犯功労団体等の表彰	地域安全活動に功労のあった者又は団体に対し、(公財)岐阜県防犯協会とともに表彰を行う。警察庁、中部管区警察局、県等による表彰。	表彰数 ・功労者 ・功労団体	令和4年 55人 16団体	表彰を通して、地域安全活動に顕著な功績のあった者(団体)を顕彰し、もって安全安心なまちづくりに関する優れた取組を広く普及させていく。	生活安全総務課
			令和3年 45人 14団体		
全国地域安全運動ポスター、標語の表彰	県内の中高生、一般から全国地域安全運動のポスター、標語を公募し、(公財)岐阜県防犯協会とともに表彰を行う。入賞作品は、全国地域安全運動の中で活用する。	応募数 ・ポスター ・標語	ポスター 27点 標語 414点	ポスターや標語の募集を通して、全国地域安全運動への関心を高めるとともに県民等の自主防犯意識の高揚と地域安全活動の活性化を図る。	生活安全総務課
			ポスター 151点 標語 621点		
年末年始地域安全運動の普及促進	地域安全に対する県民等の意識を高め、積極的な地域安全活動を展開するための重点的広報啓発期間の1つとして「年末年始地域安全運動」を定め、(公財)岐阜県防犯協会と連携を図りながら、県内各地で活動を行う。	-	継続実施	年末年始地域安全運動を通じて、県民等の自主防犯意識の高揚と地域安全活動の活性化を図る。	県民生活課 生活安全総務課
			継続実施		
春と秋の全国火災予防運動の普及促進	火災予防意識の一層の普及を図るため、県HPでの広報のほか、各消防本部において、各種イベントにおける普及啓発活動、高齢者世帯への訪問、住宅火災警報器の設置促進に向けた街頭広報活動等を実施する。	-	継続実施	県民の防火防災意識を高め、火災の発生を防ぐとともに、万が一発生した場合にも被害を最小限にとどめるための取り組みを継続的に進める。	消防課
			継続実施		

【視点1】

<p>安全・安心まちづくりアドバイザーの派遣</p>	<p>これから防犯活動を始めようと考えている、あるいは活動にさらなる広がりを持たせたいと考えている県民等が抱えている様々な疑問や課題などに対して、防犯の専門家や防犯活動の実践者を安全・安心まちづくりアドバイザーとして派遣する。</p>	<p>派遣回数 参加人数</p>	<p>令和4年 4回 約144人</p> <p>令和3年 4回 約75人</p>	<p>県民等による自主的な防犯活動の活性化のため、制度周知とその活用を図っていく。</p>	<p>県民生活課</p>
<p>地域安全活動アドバイザーの設置</p>	<p>地域安全活動アドバイザー(地域安全活動に関する知識、経験を有する警察職員OB)が、民間防犯組織・警察等行政機関と連絡調整しながら、県民等が行う地域安全活動に対し、助言、支援等を行う。</p>	<p>設置者数 ・警察本部 ・岐阜中署以下19警察署</p>	<p>令和4年 2人 19人</p> <p>令和3年 2人 19人</p>	<p>岐阜県警察スクールサポーター兼地域安全活動アドバイザーとして警察本部2人、県内19警察署19人を配置し、地域安全情報や非行防止等に関する情報発信を行うとともに、学校及び地域における児童生徒の安全対策を推進する。</p>	<p>少年課 生活安全総務課</p>
<p>防犯出前講座の実施</p>	<p>防犯に関する講話や、県内での防犯に関する取組などをテーマに、出前講座を行う。</p>	<p>講座回数 参加人数</p>	<p>令和4年 3回 約60人</p> <p>令和3年 0回 0人</p>	<p>県民等による自主的な防犯活動の活性化のため、制度周知とその活用を図っていく。</p>	<p>県民生活課</p>
<p>警察活動協力員の委嘱</p>	<p>警察活動協力員(地域安全活動に関する知識、経験を有する警察職員OB)が、地域住民と警察とのパイプ役として、また、地域において実施する自主的な地域安全活動の中核として県民等の地域安全活動を支援する。</p>	<p>委嘱者数</p>	<p>令和4年 532人</p> <p>令和3年 535人</p>	<p>警察活動協力員が、地域住民等と警察とのパイプ役として、また、地域において実施する自主的な地域安全活動の中核として県民等の地域安全活動を支援していく。</p>	<p>生活安全総務課</p>
<p>地域安全指導員の委嘱</p>	<p>各地区防犯協会と県民等とを繋ぐ地域安全ボランティアの地域安全指導員を地区防犯協会と警察署で委嘱し、地域主体による地域安全活動を推進する上でリーダー的な役割を果たす。</p>	<p>委嘱者数</p>	<p>令和4年 2,453人</p> <p>令和3年 2,448人</p>	<p>地域安全指導員には、地域主体による地域安全活動を推進する上でのリーダー的な役割を果たしてもらう。</p>	<p>生活安全総務課</p>

イ 地域安全情報等の提供

地域安全情報等の提供のため、県広報紙、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等を利用し、幅広く情報を発信していきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
あらゆる広報媒体を活用した広報活動の充実	「岐阜県からのお知らせ」、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等あらゆる広報媒体を活用して、防犯に関する広報活動の充実を図る。	—	随時発信	重点的な広報啓発期間のほかにも、犯罪情勢などを踏まえ、あらゆる機会を通じて広報啓発を図っていく。	県民生活課 生活安全総務課
			随時発信		
安全・安心まちづくりポータルサイトの構築	犯罪の発生状況、防犯情報や自主的な防犯活動に関する情報、犯罪被害者支援情報などがワンストップで入手できるポータルサイトを構築する。	アクセス数	令和4年 820件	平成20年11月末に開設したポータルサイトを県民等に広く周知するとともに、より有用な情報提供をしていく。	県民生活課
			令和3年 863件		
「安全・安心メール」の発信	登録者のパソコン・携帯電話に、ひったくり、子どもに対する声掛け、刑法犯の発生・検挙、多発犯罪の防止対策等情報を電子メールでタイムリーに提供する。 「ぎふポータル」のメール配信機能を活用して運用を開始したが、同機能の廃止により、平成22年10月からは、県警独自で契約した企業のメール配信サービスをASP方式で利用するシステムに移行した。	送信件数	令和4年 1,412件	パソコン・携帯電話（アプリ以外）への配信を継続し、情報を県民にタイムリーに提供することで、県民の防犯意識の高揚及び自主防犯対策等の促進を図る。	生活安全総務課
令和3年 1,366件					
犯罪発生マップ等の提供	ひったくり、子どもに対する声掛け事案などの発生状況を犯罪発生マップにして、県警ホームページでわかりやすく情報提供する。	アクセス数	令和4年 3,774件	令和4年度で廃止し、今後は他の広報媒体により、発生状況などの情報提供をしていく。	生活安全総務課
			令和3年 2,717件		
岐阜県警察防犯アプリ（R2.4.1運用開始）	分散した警察情報をスマホアプリに一括して配信、より分かりやすく警察情報を提供する。さらに情報を活用した自主防犯活動を促進する機能を備えている。	登録者数	令和4年 19,169件	スマホアプリを活用した、警察情報の提供により、自主防犯活動を促進する。	生活安全総務課
令和3年 15,536件					

(2) 自主的な防犯活動の支援及び促進

【取組の方向】

「自分の地域の安全は自分たちで守る」を合言葉に展開される自主的な防犯活動を支援し、その活動の活性化を促進する。

県内各地では、自治会やボランティア団体、事業者の皆さんなどによる子どもの見守り活動や防犯パトロール活動が盛んになってきており、地域の安全を自分たちで守ろうという機運が高まってきています。

しかしながら、子どもに対する声掛け事案や、ニセ電話詐欺や車上ねらい、放火など県民の身近で発生する犯罪に対する不安が強くなります。今後とも、県民一人ひとりが「自分の地域の安全は自分たちで守る」という意識を持ち、地域における自主的な防犯活動に積極的に関わっていくことが大切です。

このため、自主的な防犯活動への支援や人材育成を行い、その活動の活性化を促進していきます。

ア 自主的な防犯活動の支援

自主的な防犯活動を支援するため、有益な情報の発信やアドバイスなどの取組を行っていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇自主的な防犯活動に役立つ情報の提供					
安全・安心まちづくりポータルサイトの構築	【再掲】				県民生活課
「岐阜県安全・安心まちづくり情報」の発行	県に登録された「安全・安心まちづくりボランティア」や「安全・安心まちづくりフレンドリー企業」のさらなる活動の充実を促進するため、「岐阜県安全・安心まちづくり情報」を発行し、有用な情報（放火対策含む）提供などを行う。発行物は、インターネット上で公開する。	発行回数	令和4年 2回	登録者への有用な情報提供手段として発行を継続していく。	県民生活課
安全・安心メールの発信	【再掲】				生活安全総務課
犯罪発生マップ等の提供	【再掲】				生活安全総務課

【視点1】

放火予防情報の掲載	放火されないための8つのポイント等、放火対策に関する情報をホームページに掲載し、県民への周知を図る。	—	インターネット上で公開	放火対策に関する情報をホームページに掲載し、県民への周知を図る。	消防課
◇自主的な防犯活動へのアドバイス、ノウハウの提供					
安全・安心まちづくりアドバイザーの派遣	【再掲】				県民生活課
地域安全活動アドバイザーの設置	【再掲】				少年課 生活安全総務課
警察活動協力員の委嘱	【再掲】				生活安全総務課
地域安全指導員の委嘱	【再掲】				生活安全総務課
防犯出前講座の実施	【再掲】				県民生活課
防犯ボランティアの手引きの作成	防犯ボランティア団体の立ち上げ方法や活動方法などの基礎的な知識についてのマニュアルを作成し自治会等の各種団体に提供する。	発行冊数 (作成時のみ)	令和4年 0冊 令和3年 0冊	引き続き、配布するとともに、インターネット上でも公開していく。	生活安全総務課
青色回転灯等装備車両による防犯パトロールの促進	県民等による防犯活動の1つの方法として、青色回転灯等装備車両によるパトロール活動を促進する。	実施団体数 装備車両数	令和4年 104団体 206台 令和3年 106団体 208台	県民等による防犯活動の1つの方法として、青色回転灯等装備車両によるパトロール活動を促進していく。	生活安全総務課
「防犯ボランティアフォーラム」の開催	県内で活躍する様々な世代の防犯ボランティア団体を一堂に集め、防犯ボランティアを取り巻く現状や先進的な事例を示すことにより、団体相互の連携強化と更なる活動の活性化を図る。	参加団体 参加人数	令和4年 約90人 令和3年 開催中止	今後とも現状に応じて適切なテーマを選定し、防犯ボランティアの活性化支援に資するイベントを開催していく。	生活安全総務課
◇自主的な防犯活動へのその他の支援					
安全・安心まちづくり地域連携会議の開催	地域防犯(放火対策含む)に取り組む官民の関係者(地域単位)の連携強化を図るべく、情報共有や意見交換を目的とした開催する。	開催回数 参加人数	令和4年 開催中止 令和3年 開催中止	防犯ボランティア団体等の掘り起こしを強化するため事業を見直し、令和4年度で休止する。	県民生活課

【視点1】

<p>「安全・安心まちづくりボランティア」、「安全・安心まちづくりフレンドリー企業」への活動物品等の配付</p>	<p>県に登録された「安全・安心まちづくりボランティア」に対し蛍光ベストや腕章、「安全・安心まちづくりフレンドリー企業」に対し表示看板を配付する。</p>	<p>ボランティア 団体数 登録人数</p>	<p>令和4年 396 団体 32,390 人 令和3年 398 団体 32,304 人</p>	<p>今後とも自主的な防犯活動の立ち上げ支援を行うとともに、様々な情報提供等を行っていく。</p>	<p>県民生活課</p>
<p>安全・安心ステーション事業の実施</p>	<p>防犯ボランティア団体に対して活動物品、活動ノウハウを提供し、活動の活性化を図るとともに、他団体の手本になってもらう。</p>	<p>実施団体数 参加人数</p>	<p>令和4年 24 団体 1,078 人 令和3年 24 団体 1,122 人</p>	<p>防犯ボランティア団体に対して活動物品、活動ノウハウを提供し、活動の活性化を図っていく。</p>	<p>生活安全総務課</p>
<p>岐阜県ボランティア・市民活動支援センターの運営</p>	<p>県域にわたるボランティア活動の発展と活性化を図るため、(社福)岐阜県社会福祉協議会が運営する県ボランティア・市民活動支援センターの運営や各種事業に対して支援を行う。</p>	<p>—</p>	<p>運営支援 運営支援</p>	<p>県ボランティア・市民活動支援センターへの支援を通して、市町村ボランティアセンターの活性化を図っていく。</p>	<p>地域福祉課</p>
<p>老人クラブ活動への助成</p>	<p>高齢者の社会参加及び生きがい対策のため、地域見守り活動、友愛訪問活動、認知症サポーターの育成等を行う市町村老人クラブ及び市町村老人クラブ連合会に対し助成を行う。</p>	<p>地域見守り等の取組をする老人クラブ数</p>	<p>令和4年 老人クラブ 727 位 老人クラブ連合会 10 市町村 令和3年 老人クラブ 746 単位 老人クラブ連合会 9 市町村</p>	<p>今後とも、市町村老人クラブ、市町村老人クラブ連合会の実施する地域貢献活動を支援していく。</p>	<p>高齢福祉課</p>
<p>岐阜県警察大学生等防犯ボランティア登録制度の実施</p>	<p>県内の大学等に通学する学生及び県内に居住する学生を対象とした防犯ボランティア登録制度を運用し、青年ボランティアの防犯ボランティア活動への参加を促進す</p>	<p>登録人数</p>	<p>令和4年 52 人 令和3年 44 人</p>	<p>学生ボランティアに対するボランティア保険の助成等の支援を行い、青年ボランティア人口の増加と既存のボラン</p>	<p>生活安全総務課</p>

	る。			ティア団体との連携を図っていく。	
◇その他の取組					
(公財)岐阜県防犯協会への支援	県民等による防犯活動の活性化、地域安全思想の普及宣伝などを行う(公財)岐阜県防犯協会に対し支援を行う。	—	運営支援	県民等による防犯活動の活性化、広報啓発などを行う(公財)岐阜県防犯協会に対し支援を行っていく。	生活安全総務課
			運営支援		

イ 人材の育成

地域における自主的な防犯活動の中心となっただけでなく人材の育成を行っていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
安全・安心まちづくりリーダー養成講座の実施	平成21年度に開催した「安全・安心まちづくりボランティアサミット」で明らかになった、自主防犯ボランティア団体の後継者問題に対して、新たな担い手となる防犯ボランティアリーダーを養成する講座を開催して支援を行う。	修了者数	令和4年 開催中止	防犯ボランティア団体等の掘り起こしを強化するため事業を見直し、令和4年度で廃止する。	県民生活課
			令和3年 開催中止		
安全・安心まちづくりアドバイザーの派遣	【再掲】				県民生活課

視点2 子ども、高齢者等の安全確保

(1) 子どもの安全確保

【取組の方向】

子どもの安全の確保のため、地域ぐるみの取組を促進する。

子どもの安全を確保するためには、学校や家庭、自主的な防犯活動を行うボランティア団体、事業者の皆さん、行政、警察がそれぞれ取組を行い、地域が一体となって相互に連携・協力し、子どもを見守っていくことが大切です。

また、子どもが犯罪被害に遭わないようにするための安全教育や心豊かな人格形成を促す教育を充実することも必要です。

さらに、子どもが健全に育ち、非行に走らないための地域づくりや、子どもが虐待されない地域づくりもあわせて行っていくことも必要です。

このため、子どもが健全に育つことができるよう学校等・通学路等の安全確保等、安全教育等の充実、健全育成・非行防止、虐待防止に関する取組を進めていきます。

ア 学校等・通学路等の安全確保等

地域ぐるみで、幼稚園、保育所、認定こども園、小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校や、通園・通学路、子どもの遊び場所となる公園などの安全確保を進めていきます。

また、空地・空家の所有者・管理者に対し、その場所の管理徹底と防犯上の必要な措置が講ぜられるよう、市町村の協力を得ながら推進していきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇学校等の安全確保					
「学校等における児童等の安全の確保の指針」の策定	幼稚園、保育所、認定こども園、小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校などにおいて、子どもの安全の確保に有効な対策などをとりまとめた指針を、学校の設置者・管理者などを中心に普及啓発する。	—	指針に基づく施策を実施	平成21年3月に策定した指針を、学校安全講習会等、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。指針については、社会情勢の変化や防犯設備に関する技術開発の進展等を踏まえた見直しを行う。	県民生活課 私学振興・青少年課 子育て支援課 学校安全課 生活安全総務課 少年課
私立幼稚園における安全対策の	私立幼稚園連合会が各私立幼稚園に対して安全対策の指導を行う場	補助件数	令和4年 1件	私立幼稚園連合会に対する支援を継続し、私立	私学振興・青少年課

【視点2】

促進	合、それに要する経費に対し補助を行う。		令和3年 1件	幼稚園における安全対策の促進を図っていく。	
私立学校における安全対策の促進	私立学校(小中高)が行う特色ある学校づくりの一環として、「安全安心な学校づくり」などを行う場合に、その施設整備や備品購入に要する経費に対し補助を行う。	補助件数	令和4年 1件	私立学校(小中高)に対する支援を引き続き行い、私立学校の安全対策の促進を図っていく。	私学振興・青少年課
			令和3年 2件		
地域に開かれた学校づくりの推進	学校評議員制度や学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)による県民等の学校運営への参加や岐阜県ふるさと教育週間における学校公開などを通して、学校と県民等との連携・交流を促進し、安全な教育コミュニティづくりを支援する。	学校関係者 評価の 実施率	令和4年 小中高特 100%	保護者や地域住民の学校教育への参画を促し、学校運営の改善とコミュニティの活性化に資する開かれた学校づくり及び安全な地域社会づくりの一層の推進を図っていく。	義務教育課 教育総務課 特別支援教育課
			令和3年 小中高特 100%		
学校警察連絡協議会の開催	学校と警察署との情報交換、連携を図るために、定期的に協議会を開催する。	開催数	令和4年 24回	今後とも定期的に協議会を開催し、連携を図っていく。	少年課
			令和3年 24回		
◇通学路等の安全確保					
「通学路等における児童等の安全の確保の指針」の策定	通園・通学路、子どもの遊び場所となる公園などにおいて、子どもの安全の確保に有効な対策、それぞれの管理者や防犯ボランティア団体との連携・協力などをとりまとめた指針を、学校の設置者・管理者などを中心に普及啓発する。	-	指針に基づく 施策を実施	平成21年3月に策定した指針を、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。指針については、社会情勢の変化や防犯設備に関する技術開発の進展等を踏まえた見直しを行う。	県民生活課 私学振興・青少年課 子育て支援課 農地整備課 森林経営課 道路建設課 道路維持課 学校安全課 生活安全総務課 少年課 交通企画課
			指針に基づく 施策を実施		
連れ去り事案等未然防止広報の実施	子どもに対する声掛け事案の発生状況や特徴、未然防止を図るための防犯情報をホームページに掲載し、情報を共有化する。	-	随時更新	子どもに対する声掛け事案の発生状況、防犯情報等をホームページに掲載し、情報を共有化していく。	少年課
			随時更新		
「地域のおじさんおばさん運	「地域の子どもは、地域で守り育てる」を合言葉に、地域の大人が子	地域の おじさん	令和4年 167名	今後とも、地域団体等と連携しながら取組を継	私学振興・青少年課

【視点2】

<p>動」の推進</p>	<p>子どもたち一人ひとりを暖かく見守りながら励ましたり、注意や助言を与えたりすることで、地域の教育力、連帯感を高める。</p>	<p>おばさん 年間新規 登録者数</p>	<p>令和3年 384名</p>	<p>続していく。</p>	
<p>「地域安全の日」の普及促進</p>	<p>【再掲】</p>				<p>生活安全総務課</p>
<p>「県民交通安全の日」の普及促進 (毎月15日)</p>	<p>「県民交通安全の日」に、交通ボランティア、市町村、警察署、交通安全協会などが、登校時に通学路の交差点において、交通安全街頭指導活動を行う。</p>	<p>—</p>	<p>継続実施 継続実施</p>	<p>今後とも、継続して「県民交通安全の日」の普及を促進していく。</p>	<p>県民生活課 交通企画課</p>
<p>「子供110番の家」の設置支援</p>	<p>子どもに対する声掛け事案等の発生時に緊急避難先として、通学路周辺等の民家や店舗などに設置された「子供110番の家」に対し、(公財)岐阜県防犯協会とも連携を図りながら、各種支援を行う。</p>	<p>設置数</p>	<p>令和4年 18,133箇所 令和3年 19,699箇所</p>	<p>(公財)岐阜県防犯協会とも連携を図りながら、各種支援を行っていく。</p>	<p>学校安全課 少年課</p>
<p>「岐阜県放課後子ども総合プラン」の推進</p>	<p>小学校区毎に、放課後等の子どもの安全安心な活動場所を確保するために、市町村が設置する「放課後子ども教室」、「放課後児童クラブ」の運営の支援を行う。</p> <p>【放課後子ども教室】</p> <p>全ての子どもを対象として、安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、住民等との交流活動等を行う。</p> <p>【放課後児童クラブ】</p> <p>共働きの家庭など留守家庭の小学生に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を提供する。</p>	<p>教室実施 市町村数 教室数</p> <p>クラブ実施 市町村数 クラブ数</p>	<p>令和4年 19市町村 113教室 令和3年 17市町村 101教室 令和4年 41市町村 571クラブ 令和3年 41市町村 568クラブ</p>	<p>「放課後子ども教室」の実施拡充を市町村に促していくとともに、「放課後児童クラブ」の必要な全小学校区での設置を目指して引き続き、財政支援等を行っていく。</p>	<p>環境生活政策課 子育て支援課</p>
<p>小規模児童クラブサポート事業の実施</p>	<p>小規模な放課後児童クラブや季節児童クラブの運営費や開設経費の補助を行う。</p>	<p>市町村数 クラブ数</p>	<p>令和4年 7市町村 7クラブ (うち季節 7クラブ)</p>	<p>夏休み等長期休暇に実施する季節児童クラブ及び10人未満で構成する小規模児童クラブへの運営費や開設経費の</p>	<p>子育て支援課</p>

	が策定された。		随時連携		環境管理課 高齢福祉課 地域福祉課 商業・金融課 道路維持課 都市政策課 建築指導課 生活安全総務課
--	---------	--	------	--	---

イ 安全教育等の充実

子どもが、犯罪被害に遭わないようにするために、様々な危険を予測し、回避できる能力を身につけていくための安全教育を進めていきます。

また、社会の構成員としての子どもの規範意識や責任意識、他人を思いやる心、命を大切にすること豊かな感受性を育む心の教育の充実に努めます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇防犯、交通安全					
学校安全講習会の開催	公立幼稚園、小中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教頭等を対象に、学校安全に関する講習会を行い、管理職の危機管理意識の高揚を図る。(県内6地区で開催)	開催数 参加人数	令和4年 6回 (オンライン) 740人 令和3年 6回 (オンライン) 753人	交通安全、生活安全(防犯を含む)、災害安全の内容を取り上げ、各学校の教頭、各市町村教育委員会担当者を対象にして、危機管理意識を高める講習会を行う。	学校安全課
高校生に対する交通安全教育の推進	高校が実施する交通安全教室や総合的な探究の時間を活用した出前講座を行うとともに、総合的な探究の時間において、生徒自身が多様な視点から乗車用ヘルメットを魅力的なものとするアイデアを出し合い、着用率の向上に努める。	—		探究テーマごとにヘルメット着用の魅力を発見し、高校生自らがヘルメットの重要性を理解しながら、高校生の着用率を向上させる。 【R5新規】	県民生活課
岐阜県警察スクールサポーターの設置	警察本部及び県内19警察署に「岐阜県警察スクールサポーター兼地域安全活動アドバイザー」を配置し、地域安全情報や児童生徒の非行防止等に関する情報を学校等の関係機関、自治体、PTA、自主防	非行防止及び立ち直り支援活動回数 防犯講話(非行防止教室)	令和4年 0回 令和3年 1回 令和4年 575回	警察本部2人、県内19警察署に19人配置されている岐阜県警察スクールサポーター兼地域安全活動アドバイザーによる地域安全情報や	少年課 生活安全総務課

【視点2】

	<p>犯組織等に提供し、児童・生徒や学校の安全に関する指導・助言を行うとともに、「小学校における不審者侵入対策訓練」、「非行防止教室」、「安全点検活動」等にも取り組む。</p>	<p>回数</p> <p>令和3年 573回</p> <p>管理者対策 回数</p> <p>令和4年 43回</p> <p>令和3年 41回</p> <p>安全点検活動 回数</p> <p>令和4年 573回</p> <p>令和3年 416回</p>	<p>令和3年 573回</p> <p>令和4年 43回</p> <p>令和3年 41回</p> <p>令和4年 573回</p> <p>令和3年 416回</p>	<p>非行防止等に関する情報発信を行うとともに、学校及び地域における児童生徒の安全対策を推進する。</p>	
<p>幼児等連れ去り 事案未然防止教育 班「たんぼぼ」 による教育活動</p>	<p>幼稚園、保育所、小学校などを巡回して、ペープサート・クイズ等を活用した参加・体験型教育により、子どもに危険回避能力等を身に付けさせる。</p>	<p>巡回数 参加人数</p>	<p>令和4年 316回 28,680人</p> <p>令和3年 292回 26,429人</p>	<p>小学校向けシナリオを修正し、より効果的な参加・体験型教育により、子どもの危険回避能力等の向上を図る。</p>	<p>少年課</p>
<p>地域安全マップ の作成推進</p>	<p>地域、学校、家庭等で、地域安全マップが作成できるよう、岐阜県のモデルマップを作成するとともに、マニュアルを作成して、インターネットで公開する。</p>	<p>—</p>	<p>HP掲載</p> <p>HP掲載</p>	<p>地域安全マップが作成できるように実施方法の広報、マニュアルを整備しインターネットで公開していく。</p>	<p>生活安全総務課</p>
<p>◇消費生活</p>					
<p>教育指導用資料 や副読本の作成</p>	<p>学校における消費者教育の資料として活用できるよう、消費生活に関する基礎知識や、消費生活相談の事例・対処方法を中心とした資料等を作成し、各学校に配布する。なお、その内容については県のホームページにも掲載する。</p>	<p>資料発行部数 (作成時のみ)</p>	<p>高等学校向け R5.3第26版 22,000部</p> <p>中学校向け R4.11第4版 20,400部</p> <p>特別支援学校高等部向け R5.3第2版 1,500部</p> <p>高等学校向け R4.3第25版 22,000部</p> <p>中学校向け R3.10第3版 20,400部</p> <p>特別支援学校高等部向け R4.3初版</p>	<p>消費者被害を防止するためには、早期からの教育が必要であるため、今後とも継続して副読本を作成し啓発を行っていく。</p>	<p>県民生活課</p>

【視点2】

			1,500部		
学校への出前講座の実施	消費生活に関する様々なトラブルの未然防止を図るため、小中学校や高校において出前講座を実施する。	講座回数 参加人数	令和4年 40回 2,967人 令和3年 40回 3,216人	今後とも、要請に応じて出前講座を実施していくとともにその活用の働きかけを行う。	県民生活課
学校教職員等を対象とした研修講座の実施	消費者教育の重要性の認識・副教材の効果的な活用方法の周知や子どもの被害の未然防止を図ることを目的に、学校教職員等を対象に研修を実施する。	講座回数 参加人数	令和4年 3回 138人 令和3年 5回 191人	今後とも、要請に応じて研修を実施していくとともに、その活用の働きかけを行う。	県民生活課
大学・短大や、事業所の新入社員を対象とした出前講座の実施	成人になる直前若しくは、なつて間もない若者への啓発を図るため、大学・短大や事業所の新入社員を対象に、新入生のオリエンテーション等の場を活用し、消費者トラブルの未然防止を図るため出前講座を実施する。	講座回数 参加人数	令和4年 7回 899人 令和3年 7回 701人	今後とも、要請に応じて出前講座を実施していくとともに、その活用の働きかけを行う。	県民生活課
若年者向け消費者教育及び高齢者の消費者被害防止施策の推進	学校や家庭で手軽に消費生活について学べる若年者向けの消費者教育教材を作成し、トラブルの未然防止を図る。また、高齢者と対面する機会の多い事業者等と連携した啓発、見守り活動を実施し、高齢者の消費者被害の早期発見・早期解決を図る。	高齢者向け 消費生活 カレンダー 作成部数	令和4年 2,500部 —	若年者向けの消費者教育用デジタル教材を作成し、教育委員会と連携して学校や家庭での活用を推進する。また、事業者等と連携し、高齢者の消費者被害防止の注意喚起を行うとともに見守り体制を強化する。	県民生活課
◇インターネット					
情報モラル教育の推進	学校において、インターネット等の安全な使用方法や、情報の正しい読み取り方などを学ぶ情報モラルの教育の充実を図る。 また、子どもを有害情報やトラブルから守り、安全に情報機器を利用できるよう、保護者・教職員・青少年を対象とした情報モラルに関する啓発等の充実を図る。	—	継続実施 継続実施	チラシ及びリーフレットを作成。保護者・教職員に配布し、情報モラルに関する啓発を行う。今後も様々な形で啓発等を行っていく。	教育研修課 学校安全課 私学振興・青少年課

【視点2】

<p>インターネット 安全安心利用啓 発</p>	<p>青少年がインターネットを安全に安心して利用できる環境の整備について「ネット安全・安心ぎふコンソーシアム」を設置し、関係団体、関係事業者及び行政機関の連携・協力による取組を推進し、地域や学校等において積極的な啓発を図る。</p> <p>また昨今の闇バイト問題に重点的に取り組むため、啓発強化月間や啓発動画作成を行うとともに、フォーラムを開催する。</p>	<p>—</p>	<p>継続実施</p>	<p>青少年がインターネットを安全に安心して利用できる環境の整備について、関係団体、関係事業者及び行政機関の連携・協力による取組を推進していく。</p>	<p>私学振興・青少年課</p>
<p>少年に対するイ ンターネット等 の違法、有害情 報対策の推進</p>	<p>サイバー空間には有害情報と一般情報が混在しており、インターネットを利用する青少年が犯罪に関わるケースが増えたため、学校関係機関・団体等と協働でフィルタリングソフトの利用促進等の広報啓発を進めるとともに、警察職員による情報モラル教室を開催し被害防止のための講話会等を実施する。</p> <p>また、闇バイト対策として、サイバーパトロールや県民からの通報・相談などにより広く情報収集を行うとともに、有害な投稿に対しては投稿者・閲覧者への警告メッセージの発出を実施する。</p>	<p>派遣回数 参加人数</p>	<p>令和4年 203回 45,081人</p>	<p>関係機関・団体等と連携したフィルタリングソフト利用促進の広報啓発及び犯罪被害防止講話を実施する。</p>	<p>少年課 サイバー犯罪対策課</p>
<p>インターネット ・プロバイダ等 防犯連絡協議会 の開催</p>	<p>県内に所在するインターネットサービスプロバイダと連携して、ネットワークセキュリティの確保や不正アクセス行為に対する管理の徹底などを協議し、ネット空間における被害を防止する。</p>	<p>開催数 参加人数</p>	<p>令和4年 1回 12団体 (オンライン開催)</p>	<p>今後とも、県内のプロバイダ等との連携を図り、協力体制を確保していく。</p>	<p>サイバー犯罪対策課</p>
			<p>令和3年 1回 12団体 (オンライン開催)</p>		

◇規範意識等の育成					
高校生によるMSリーダーズ活動の推進	「高校生の高校生による高校生のための規範意識啓発活動」として、「高校生によるマナーズ・スピリット(MS)・リーダーズ活動」を推進する。 ①少年の健全育成及び非行防止活動 ②私たちの街パトロール活動 ③駅・公園などの美化活動 ④通学路の安全確保などの交通事故防止活動 ⑤薬物乱用防止活動 ⑥その他(研修会など)	実施校数 MSリーダーズ数	令和4年 110校 7,076人	今後とも、MSリーダーズ活動を積極的に支援していく。	少年課
			令和3年 109校 7,248人		
		実施回数 延べ参加人員	令和4年 1,191回 16,310人		
			令和3年 896回 13,856人		
中学生によるMSJリーダーズ活動の推進	中学生の自主的な社会参加活動として「マナーズ・スピリット・ジュニア(MSJ)・リーダーズ活動」を推進する。 インターネットにおけるフィルタリング利用など「ネットプロミス(ネット憲法)」の作成、採択など規範意識向上を図る。	実施校数 MSJリーダーズ数	令和4年 155校 7,763人	今後、MSJリーダーズ活動を積極的に支援していく。	少年課
人権に関する啓発活動の充実	「人権啓発フェスティバル in ぎふ」、県内5圏域での「人権啓発展」の開催、「ちょっといい話」の募集及び「社会人権学習資料」等、啓発資料の配布により、子どもの発達段階に即した人権尊重の意識を高め、偏見や差別のない社会の実現を目指す。	フェスティバル 開催数	令和4年 1回	平成30年3月に策定した「岐阜県人権施策推進指針(第三次改定)」に基づき、県民一人ひとりの人権が尊重される社会づくりの実現に向けた効果的な人権教育・啓発を推進するため、人権啓発フェスティバル in ぎふをはじめ、幅広い各種の人権啓発活動を実施する。 今後とも、小学校、中学校及び保護者に対する人権意識の高揚に努めていく。	人権施策推進課
			令和3年 1回		
		人権啓発展 開催数	令和4年 10会場10回		
			令和3年 5会場5回		
		発行冊数 (作成時のみ)	令和4年 学習資料 4万3千冊		
令和3年 学習資料 4万4千冊					
ちょっといい話 (応募数)	令和4年 2,762件				

【視点2】

			令和3年 2,990件		
親と幼稚園が進める心の教育推進事業	幼児が伸び伸びと遊ぶ中で、社会生活上のルールや道徳性を生活の中で身に付けていけるような家庭や地域及び園の在り方を研究する。	—	継続実施	家庭や地域社会と幼稚園が連携し、幼児の健全な心身の基礎を培う幼稚園教育の充実を図っていく。	義務教育課
			継続実施		
私立幼稚園における心の教育の促進	国際化・情報化が進展する21世紀社会を担う幼児の道徳性の芽生えを培い、豊かな感性を育て、心身とともに健やかでたくましく、21世紀社会に対応できる人間に成長できるよう、教育改革及び特色ある幼稚園づくりに務める私立幼稚園に対して、補助を行う。	補助件数	令和4年 74園	私立幼稚園に対する支援を引き続き行い、私立幼稚園における心の教育の促進を図っていく。	私学振興・青少年課
			令和3年 79園		
道徳教育の充実	児童生徒の豊かな心を育て望ましい道徳性の育成を図り、道徳教育の一層の充実を期するため、3カ年計画で次の事業を実施。 ①全市町村教委及び小中学校への道徳教育計画訪問指導の実施 ②小・中学校における道徳の時間の指導資料の作成 ③道徳教育振興会議の開催	訪問学校数	57校 (小34・中23)	計画訪問を中心に各学校における道徳教育の充実を図るとともに、指導資料を作成し、冊子として配布したりホームページに掲載したりすることによって道徳の時間の充実を図っていく。	義務教育課
			53校 (小35・中19)		
		訪問参加人数 ・教職員 ・保護者等	1,469人 7人		
			1,455人 0人		
道徳教育振興会議開催回数	2回				
	2回				
少年のスポーツ活動、社会参加活動の推進	地域の人々や少年相互の触れ合いを通じ、少年の地域社会への連帯意識を醸成し、地域レベルでの非行抑止を図る目的でスポーツ活動を通じ、地域社会への関心と参加を促して、地域住民とのふれあいと地域社会の活性化に資する「手作りの非行防止活動」を地域全体で実施する。	実施警察署 参加人数	令和4年 6所属（少年課、岐阜羽島、大垣、関、多治見、中津川） 延べ237人	スポーツ活動を通じた立ち直り支援活動や手作りの非行防止活動を積極的に展開していく。	少年課
			令和3年 4署（揖斐、大垣、関、多治見） 延べ311人		

ウ 健全育成・非行防止、虐待防止

子どもが健全に育ち、非行に走らないための地域づくりや、子どもが虐待されない地域づくりを進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇健全育成・非行防止					
青少年を健全に育む社会環境づくりの推進	岐阜県青少年健全育成条例に基づく有害図書類の指定や、書店・興行場等への立入調査を充実強化するとともに、業界・事業者との協力により自主的な規制措置を促進する。	立入調査員数 立入回数	令和4年 411人 2,470回	今後とも、岐阜県青少年健全育成条例の遵守に向けて立入調査等の充実を図っていく。	私学振興・青少年課
			令和3年 414人 2,114回		
子ども・若者育成支援ネットワーク事業の実施	ニート、ひきこもり、不登校等、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者を支援するため、「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、関係相談・支援機関の連携により円滑な自立支援を図る。	—	継続実施	困難を有する子ども・若者の問題について、関係機関等と連携し、引き続き支援体制の向上に取り組んでいく。	私学振興・青少年課
			継続実施		
性被害から青少年を守る取組の推進	児童ポルノ等の提供を求める行為の禁止や JK ビジネス営業に対する規制を強化し、青少年に対する性被害の未然防止を図る。	配布数	令和4年 4,000部	条例のあらましの配布など、児童ポルノ等をはじめとする青少年の性被害の根絶に向けた広報・啓発活動を推進していく。	私学振興・青少年課
			令和3年 4,000部		
地域社会における薬物乱用防止活動の推進	「薬物乱用防止指導員」を委嘱し、地域社会における啓発活動を実施する。	委嘱者数	令和4年 438名	指導員による地域社会での啓発活動を今後も継続して推進していく。	薬務水道課
			令和3年 447名		
薬物乱用防止出前講座の実施	希望する県内小学校(高学年)、中学校、高等学校を対象に薬物に関する正しい知識と薬物乱用の恐ろしさを啓発するため、(一社)岐阜県薬剤師会や岐阜県保護司会連合会と	実施校数 参加人数	令和4年 436校 37,243人	薬物乱用問題は、依然として予断を許さない状況であり、今後とも継続して薬物に関する正しい知識と薬物乱用の恐	薬務水道課

【視点2】

	<p>の連携を図りながら、薬物乱用防止指導員、保健所職員による出前講座を実施する。</p> <p>なお、大学や専門学校等において薬務水道課職員を講師として出前講座を開催する。</p>		<p>令和3年 382校 33,727人</p>	<p>ろしきの啓発を図っていく。</p>	
<p>非行防止講話、薬物乱用防止教室の実施</p>	<p>小中学校、高等学校を対象に、規範意識の形成と薬物乱用防止意識の向上を図るため、地元警察署長等による「非行防止講話」や「薬物乱用防止教室」を実施する。</p> <p>併せて、薬物乱用防止広報車「わかば」を活用し啓発を行う。</p>	<p>開催数 参加人数</p>	<p>令和4年 229回 58,932人</p> <p>令和3年 123回 31,168人</p>	<p>今後とも、小中学校、高等学校において講話等を実施するとともに、学校等関係機関と連携し、中学生を対象とした少年非行防止タウンミーティングを開催する。</p>	<p>少年課</p>
		<p>広報車活用数</p>	<p>令和4年 9回</p> <p>令和3年 1回</p>		
<p>麻薬・覚醒剤等の指導監視・取締</p>	<p>「大麻・けしの不正栽培及び自生けしの発見、撲滅」、「麻薬の不正利用、不正ルートへの流出防止のための麻薬取扱者の監視指導」及び「向精神薬の乱用及び不正取引の防止のための向精神薬取扱施設の監視指導」など適切な管理等について指導を実施する。</p>	<p>不正大麻けし 発見件数</p> <p>監視指導 立入回数</p>	<p>令和4年 72件 929回</p> <p>令和3年 56件 1,068回</p>	<p>今後とも、継続して実施し、大麻・けしの不法栽培や麻薬等の不正流通等を防止していく。</p>	<p>薬務水道課</p>
<p>「薬物相談窓口」の設置</p>	<p>県内12保健所・センター(岐阜市保健所を含む)、精神保健福祉センター及び民間団体(NPO法人)で、薬物に関する相談を受ける。</p>	<p>相談件数</p>	<p>令和4年 79件</p> <p>令和3年 83件</p>	<p>相談窓口の利便性の向上、担当者の対応能力の向上を図り、今後とも、継続して県民の相談に対応し、助言を行っていく。</p>	<p>薬務水道課</p>
<p>暴走族追放活動の推進</p>	<p>岐阜県交通安全対策協議会に暴走族追放推進部会を設置し、「暴走を許さない世論の形成」、「家庭、学校、地域等における青少年の指導」、「暴走行為等悪質事犯の取締り強化と再犯防止」などに取り組む。</p>	<p>—</p>	<p>随時実施</p> <p>随時実施</p>	<p>必要に応じて推進部会を開き、暴走族追放活動を展開していく。</p>	<p>県民生活課</p>
<p>「青少年SOSセンター」の設置</p>	<p>青少年の様々な悩みを365日、24時間いつでも気軽に相談できる相談窓口「青少年SOSセンター」を</p>	<p>相談件数</p>	<p>令和4年 1,139件</p>	<p>「子ども・若者総合相談窓口」として、相談体制の充実・機能強化を図つ</p>	<p>私学振興・青少年課</p>

【視点2】

	運営する。 青少年のいじめ、不登校、非行、虐待等に関する相談を受けている。		令和3年 1,106件	ていく。	
少年(補導)センター活動の推進	少年をめぐる社会環境の浄化及び少年非行の防止と、少年の健全育成と社会福祉の増進に寄与するため、県下の少年(補導)センターの連携を図る。	補導人員数	令和4年 171人	青少年の非行防止を全県的な県民運動として位置づけ、活動の活性化を図っていく。	私学振興・青少年課
			令和3年 137人		
わかあゆ学園の運営	不良行為、又は不良行為をなす恐れがある児童を入所させて指導を行い、自立を支援する。	-	継続実施	引き続き、指導、支援を行っていく。	子ども家庭課
			継続実施		
教職員(生徒指導担当者)などの資質向上	子どもの気持ちを理解し、子どもの立場に立ったアプローチを身に付けるため、カウンセリング、心理学等を取り入れた研修等を充実させるなど、生徒指導担当者などの資質向上を図る。 いじめや児童虐待等に対する相談担当者等を対象に、各種研修講座を実施する。 教育現場の問題に関わる悩みを持つ教職員に、教育現場に熟知したスタッフが相談助言を行う。	各種研修講座開催数 参加人数	令和4年 5講座 延べ2,039人 (Web開催)	今後とも、現場のニーズに応じた各種講座の開催や相談助言を行い、教職員の資質向上を図っていく。	学校安全課
			令和3年 5講座 延べ1,483人 (Web開催)		
生徒への適応指導や自立への指導援助	非社会的な問題行動や不登校傾向をもつ生徒への適応指導や自立への指導援助を行う。 ・高等学校及び特別支援学校でのスクールカウンセラーによるカウンセリング ・岐阜県総合教育センター内に高校生等を主な対象とした教育支援センターを設置 ・県立学校内教育支援センター「ほっとプレイス」の設置	相談件数	令和4年 高特カウンセリング件数 2,041件 県教育支援センター 面接 252件 電話 131件	県内全公立高等学校及び特別支援学校にスクールカウンセラーを配置し生徒の適応指導や自立への指導助言を行っていく。 県教育支援センターにおいて、将来的な社会的自立に向けたきめ細やかな支援を行っていく。	学校安全課
			令和3年 高特カウンセリング件数 1,518件 県教育支援センター 面接 329件 電話 132件		
生徒指導の充実強化	生徒指導の重要性を踏まえ、小・中・高一貫した生徒指導体制を確立し、不登校やいじめ、暴力行為等の問題行動への早期対応を図る。 ①各地区生徒指導連携強化委員会	開催実績	令和4年 地区ごとで対面開催、書面開催、Webで実施	今後も、県内6地区で、生徒指導連携強化委員会を開催し、生徒指導の連携の強化及び地域を挙げていじめの未然防	学校安全課

【視点2】

	<p>の開催</p> <p>②岐阜県生徒指導推進会議の開催</p> <p>③地域担当生徒指導主事等による 学校訪問</p>		<p>令和3年</p> <p>①書面開催で 実施</p> <p>②書面開催と Webで実施</p>	<p>止の取組の充実を図っ ていく。</p>	
<p>いじめ・不登校 等未然防止アド バイザー派遣事 業</p>	<p>いじめや不登校等の未然防止に向 け「魅力ある学校づくり」を推進す る学校を支援するため、大学教授 や校長OB等の有識者を「いじめ・ 不登校等未然防止アドバイザー」 として県内の小学校・中学校・義務 教育学校に派遣する。また、校内研 修の講師や、いじめや不登校等の 未然防止に向けた学校の取組への 助言等のため、県立学校へ有識者 を派遣する。</p>	<p>参加校数</p>	<p>令和4年</p> <p>・22小中学校 へ派遣。</p> <p>・県立学校8 校へ派遣</p>	<p>・22小中学校へ大学教 授、校長OBなどの有識 者等を派遣。</p> <p>・県立学校20校程度へ 大学教授、校長OBなど の有識者等を派遣。</p>	<p>学校安全課</p>
<p>スペシャリスト サポート事業</p>	<p>学校だけでは対応が困難な事案の 発生が予想される場合や、問題が 発生した初期段階で、学校の要請 により個々の事案に応じて外部人 材を派遣し、専門的な立場から対 応策のコーディネートや助言を行 うことにより指導体制を確立し、 問題行動の未然防止や早期解決を 図る。</p>	<p>派遣校</p> <p>派遣日数</p> <p>派遣スタッフ数</p>	<p>令和4年</p> <p>525校</p> <p>615日</p>	<p>平成30年度より「スペ シャリストサポート事 業を緊急時の派遣に特 化して実施し、学校の要 請により派遣を行い、早 期発見・早期対応を図 る。</p>	<p>学校安全課</p>
<p>スクールカウ ンセラーの設置</p>	<p>学校におけるカウンセリング機能 の充実を図るため、「心の専門家」 である臨床心理士等をスクールカ ウンセラーとして、県内全ての中 学校、公立高等学校及び公立特別 支援学校へ配置する。</p>	<p>設置校数</p>	<p>中学校校区</p> <p>176校区</p> <p>公立(隣)学校</p> <p>88校</p>	<p>県内全ての中学校、公立 高等学校及び公立特別 支援学校へ配置し、学校 の教育相談の充実を図 り、不登校や問題行動の 減少を目指す。</p>	<p>学校安全課</p>
<p>いじめを許さな い県民運動の推 進</p>	<p>県内6地域に、学校と地域の関係 諸団体により、青少年の健全育成 を目的に設置する「小中高生指導</p>	<p>「あったか い言葉かけ 県民運動」</p>	<p>令和4年</p> <p>6市町</p>	<p>今後も、県内6地区で、 生徒指導連携強化委員 会を開催し、生徒指導の</p>	<p>学校安全課</p>

	<p>連携強化委員会」に、自治会・女性団体・シニアクラブ・地域スポーツクラブ・民生児童委員、青少年育成市民会議等の諸団体を加え、子どもの居場所と絆づくり県民運動を開催する。</p> <p>各団体は、「いじめ予防」をテーマに年間を通した活動を実施する。</p> <p>併せて、「子供SOS24」（岐阜県総合教育センター）や「ほほえみダイヤル」（各教育事務所）等の電話相談において、いじめ等の相談に対応する。</p>	<p>を広報誌にて取りあげている市町村数</p>	<p>令和3年 12市町</p>	<p>連携の強化及び地域を挙げていじめの未然防止の取組の充実を図っていく。</p>	
		相談件数	<p>令和4年 1,927件</p>		
			<p>令和3年 2,329件</p>		
少年サポートセンターの設置等	<p>本部及び県下5地区の少年サポートセンター並びに警察署における少年相談を推進するほか、少年相談専門職員の指導による少年相談担当者の資質向上及び各種相談機関等との連携を深め、相談活動の充実を図る。</p> <p>また、必要に応じて、子ども相談センター等と連携し、非社会的な問題行動などをする少年のためのサポートチームを結成し、学習支援などを行う。</p> <p>さらに、警察で補導した無職少年等に対し、就学・就労等の相談活動を推進する。</p> <p>また、非社会的な問題行動等がある少年に対する継続的な指導や支援を必要に応じて関係機関と連携して行っている。</p>	<p>相談件数</p> <p>①ヤングテレホンコーナー(本部少年センター)</p> <p>②地区少年サポートセンター</p>	<p>令和4年 ①87件 ②505件</p>	<p>今後とも、少年相談活動の充実を図るとともに、少年非行防止や継続補導、被害少年への支援活動を積極的に推進していく。</p>	少年課
			<p>令和3年 ①84件 ②463件</p>		
街頭補導活動の推進	<p>交番・駐在所等の警察官や青少年育成支援官を中心に、少年警察ボランティア、学校関係者等と連携し、少年のたまり場となりやすい場所を重点に街頭補導活動の強化を図る。</p> <p>街頭補導活動の中心的な存在であ</p>	少年補導数	<p>令和4年 9,424人</p>	<p>今後とも、少年相談活動の充実を図るとともに、少年非行防止や継続補導、被害少年への支援活動を積極的に推進して</p>	少年課
			<p>令和3年 10,456人</p>		

	<p>る、少年警察ボランティアの少年補導員については、年1回以上研修会等を実施し、活動の充実を図っている。</p> <p>【少年警察ボランティア】</p> <p>少年補導員(一部少年指導委員を兼務)を委嘱して、街頭補導、有害環境浄化、少年の居場所づくり、立ち直り支援等の活動を推進する。</p>	少年警察ボランティア委嘱数	<p>令和4年 800人 (うち少年指導委員兼務者79人)</p>		
<p>非行少年の適切な処遇と少年の福祉を害する犯罪の取締り強化</p>	<p>家庭裁判所、子ども相談センター等の関係機関と連携を密にして、少年事件の迅速・適正な処理を図るとともに、「少年の福祉を害する犯罪」の取締りを強化する。</p> <p>【少年の福祉を害する犯罪】</p> <p>青少年健全育成条例違反(みだらな性行為等)、児童買春・児童ポルノ禁止法違反(児童買春等)、風営適正化法違反(年少者使用等)等</p>	少年の福祉を害する犯罪検挙数 検挙人数	<p>令和4年 107件 104人</p>	今後とも引き続き、少年事件の迅速・適正な処理を図るとともに、「少年の福祉を害する犯罪」の取締りを強化する。	少年課
<p>岐阜県児童生徒健全育成サポート制度の取組</p>	<p>学校と警察が児童生徒の安全確保と問題行動に関して、自らの役割を果たしつつ問題の所在を相互に理解し、連携して児童生徒の健全育成に対応するため、学校等連携機関との間における協定書により、取組を行う。</p>	—	<p>継続実施</p>	今後とも引き続き、制度の適正かつ効果的な運用に努めていく。	少年課
◇虐待防止					
<p>児童相談体制の整備</p>	<p>市町村要保護児童対策地域協議会の運営等について指導・研修を行う。</p> <p>さらに、児童虐待地域協力員と定期的な連絡会議を持つとともに、専門研修、事例発表を行う。</p> <p>併せて、各子ども相談センターのスキルアップを図る。</p> <p>また、児童虐待の通告の仕組みについて、学校や地域住民への説明</p>	連絡会議開催回数・参加人数	<p>令和4年 1回 602人</p>	研修等を実施し、関係機関の専門性の向上を図っていく。	子ども家庭課
			<p>令和3年 1回 337人</p>		

【視点2】

	等により周知に努め、虐待の早期発見・防止を図る。				
「子ども・家庭110番」の設置	子どもや家庭の悩み、問題に対し早期に適切な援助を行うため、中央子ども相談センターで家庭支援電話相談「子ども・家庭110番」を実施する。	相談件数	令和4年 1,802件	適切に援助を行うため、電話相談事業を実施していく。	子ども家庭課
			令和3年 1,781件		
「子ども相談センター24時間虐待通報ダイヤル」の設置	児童虐待に関して電話相談による通報や24時間365日受け付ける体制を強化するため、「子ども相談センター24時間虐待通報ダイヤル」を設置する。	相談件数	令和4年 1,083件	ダイヤルの適正かつ効果的な運用に努めるとともに、今後とも体制強化を図っていく。	子ども家庭課
			令和3年 1,113件		
法的対応の機能強化	各子ども相談センターが児童虐待等の相談を受理した際に、弁護士に対し、必要に応じて法的対応に関する助言や関係者との調整、家庭裁判所への申立て業務を依頼する。	依頼件数	令和4年 406件	児童虐待対応弁護士委託設置事業を実施し、法的対応の強化を図る。	子ども家庭課
			令和3年 411件		
児童家庭支援センターへの補助	地域や家庭からの相談事業等を行う児童家庭支援センターに対して、運営費補助を行う。	補助件数	令和4年 5件	県内5圏域すべてで児童家庭支援センターを継続設置し、児童相談の体制強化を図る。	子ども家庭課
			令和3年 5件		
被虐待児の一時保護の実施	緊急に子どもの保護が必要なとき、生活指導や行動観察が必要なときなど、各子ども相談センターにおいて、子どもの一時保護を行う。	保護件数 保護延べ日数	令和4年 316件	子どもの状況に応じ一時保護を実施していく。	子ども家庭課
			8,373日 令和3年 249件 7,234日		
児童虐待事案への対応	警察署などに寄せられた児童虐待事案について、児童の安全の確認及び安全の確保を最優先とした対応を推進する。	虐待認知件数	令和4年 993件	今後とも、迅速・的確な対応と関係機関との連携を図っていく。	少年課
			令和3年 803件		
子ども相談センターSNS相談窓口の設置	児童虐待の未然防止・早期発見のため、子どもや保護者がより相談しやすくなるよう、SNSによる相談対応を実施する。	相談件数	令和4年 17件 (R5.2～)	適切に援助を行っていくため、SNS相談事業を実施していく。	子ども家庭課
			—		

【視点2】

<p>ヤングケアラー オンラインサロ ンの実施</p>	<p>ヤングケアラーが悩みや不安を打ち明けることなどができる新たな場所の提供及びヤングケアラーと元ヤングケアラー、支援者等との交流場所として活用し、ヤングケアラーの現状を把握し、適切な支援につなげるため、オンラインサロンを実施する。</p>	<p>参加人数</p>		<p>ヤングケアラーへの適切な支援につなげるためのオンラインサロンを実施していく。 【R5 新規】</p>	<p>子ども家庭課</p>
<p>ヤングケアラー 実態調査</p>	<p>ヤングケアラーの支援体制を強化するため、実態調査を実施して適切な支援につなげる。</p>	<p>調査 市町村数</p>	<p>42 市町村</p>	<p>令和4年度中に県内の実態調査は完了したため、令和4年度限りで廃止する。なお、今後は実態調査の結果を活用し、ヤングケアラーへの適切な支援につなげる。</p>	<p>子ども家庭課</p>
<p>ヤングケアラー 研修の実施</p>	<p>福祉・介護・医療・教育等の関係機関職員がヤングケアラーについて学ぶための研修等を実施することで、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげる。</p>	<p>相談件数</p>	<p>令和4年 642 名</p>	<p>適切な支援につなげるための研修を実施する。</p>	<p>子ども家庭課</p>
<p>ヤングケアラー 支援体制の構築</p>	<p>ヤングケアラーの支援体制を構築するため、中央子ども相談センター及び子ども家庭課に関係機関と民間支援団体等とのパイプ役となる「ヤングケアラー・コーディネーター」を配置し、ヤングケアラーを適切な福祉サービスにつなぐ機能の強化を図る。</p>	<p>関係機関 訪問回数</p>	<p>令和4年 39 回</p>	<p>適切な福祉サービスにつなげるための機能強化を図る。 【R5 一部新規】</p>	<p>子ども家庭課</p>

(2) 高齢者、障がい者の安全確保

【取組の方向】

高齢者、障がい者の安全の確保のため、地域ぐるみの取組を促進する。

ニセ電話詐欺や悪質商法、空き巣などの犯罪被害に遭いやすい高齢者や障がい者の安全を確保し、地域において安全で安心して暮らすことができるよう、訪問活動、会合等様々な機会を活用し、情報提供を行い、犯罪被害の未然防止を図ることが大切です。

また、地域におけるネットワークの構築を図るなど、身近な地域で助け合い、支え合う仕組みづくりも必要です。

このため、高齢者、障がい者の安全を確保するための取組を進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇高齢者の安全確保					
高齢者を対象とした消費生活出前講座の実施	老人クラブ等の依頼に応じて講師が出向き、消費生活に関する出前講座を実施する。	講座回数 参加人数	令和4年 62回 1,638人 令和3年 35回 760人	今後も、要請に応じて出前講座を行うとともに、その活用の働きかけを行う。	県民生活課
県内老人クラブ等への防犯・交通安全出前講座の実施	老人クラブの集会等の機会を活用した啓発活動として、主催者の依頼に応じて「防犯」、「交通安全」をテーマとした出前講座を実施する。	講座回数 参加人数	令和4年 4回 120人 令和3年 1回 20人	今後とも、老人クラブ等の依頼に応じて、高齢者の安全意識の高揚に努めていく。	県民生活課
高齢者世帯への「高齢者安全・安心世帯訪問事業」の実施	高齢者世帯の家庭訪問を行い、「防犯」、「消費生活」、「交通安全」に関する「高齢者・安全・安心世帯訪問事業」を実施する。	訪問世帯数	令和4年 18,289世帯 令和3年 21,863世帯	今後とも、主に老人クラブ未加入世帯を対象として、継続して実施していく。	県民生活課
体験型出前講座による交通安全教育の実施	自治会や老人クラブなどに出向き、「歩行環境シミュレータ」と「自転車シミュレータ」を活用した参加体験型の出前講座を実施する。	講座回数 参加人数	歩行環境 0回 0人 自転車 25回 2,013人 歩行環境 0回 0人 自転車 9回 679人	高齢者等を交通事故から守るため、体験型の講座による教育・啓発を継続していく。	県民生活課

【視点2】

<p>新たな手口に対応したニセ電話詐欺防止対策</p>	<p>あらゆる広報媒体を活用し、ニセ電話詐欺の新たな手口とその防止対策等の情報発信をするなどし、防犯意識の高揚と自主防犯対策の促進を図るほか、金融機関をはじめ関係機関・団体と連携して、ATM周辺対策などを実施する。</p>	<p>—</p>	<p>継続実施</p>	<p>引き続き、あらゆる広報媒体を活用して情報発信するほか、金融機関等と連携して、窓口での声掛けやATM周辺対策を実施していくなど、ニセ電話詐欺被害防止の注意喚起を促す活動を実施する。</p>	<p>生活安全総務課</p>
<p>福祉のまちづくりの推進</p>	<p>岐阜県福祉のまちづくり条例における県の基本方針に基づき、高齢者、障がい者等の社会参加の促進を図る。</p>	<p>—</p>	<p>ぎふ清流おもいやり駐車場利用証制度の継続実施</p>	<p>障害者等用駐車区画（プラスワン区画）の確保、対象者への利用証の交付、制度周知を推進する。</p>	<p>地域福祉課</p>
<p>地域福祉推進体制の整備</p>	<p>(社福)岐阜県社会福祉協議会との連携のもと、市町村地域福祉計画の実践等として、市町村と市町村社会福祉協議会による、支え合いの福祉コミュニティ創造に向けた見守りネットワーク活動をはじめ、住民主体の地域での支え合いによる福祉活動を担う団体の設立や、拠点づくりを契機とした活動発展のための基盤・体制整備などへの取組を支援する。</p>	<p>—</p>	<p>継続実施</p>	<p>市町村及び市町村社会福祉協議会が地域での支え合いによる福祉活動の整備・充実に取り組む場合に、(社福)岐阜県社会福祉協議会と連携し、ノウハウ等の提供により支援していく。</p>	<p>地域福祉課</p>
<p>日常生活自立支援事業費補助金の助成</p>	<p>(社福)岐阜県社会福祉協議会が実施する、自己判断能力が低下している独り暮らしの認知症高齢者などに対して、その権利を擁護し、自立した日常生活が送れるよう支援する制度運営にかかる経費を助成する。</p>	<p>—</p>	<p>継続実施</p>	<p>引き続き、(社福)岐阜県社会福祉協議会が実施する認知症高齢者等に対する支援制度運営にかかる経費を助成していく。</p>	<p>地域福祉課</p>

【視点2】

岐阜県成年後見・福祉サービス利用支援センターの設置	現在岐阜県社会福祉協議会が日常生活自立支援事業及び成年後見制度の実施体制構築に向けた支援事業のために設置している岐阜県成年後見・福祉サービス利用支援センターにて、成年後見を実施する人材の育成を図るため、講座を実施する。	—	継続実施	引き続き、岐阜県成年後見・福祉サービス利用支援センターにて、成年後見を実施する人材の育成を図るため、講座を実施する。	地域福祉課
			継続実施		
民生委員の設置	独居の高齢者や支援を必要とする地域住民からの相談に応じたり、見守り活動を行ったりする民生委員を設置する。	委嘱者数	令和4年 4,486人 (県所管： 3,628人)	民生委員活動を充実させるため、市町村との連携のもと、民生委員の適正な配置を行っていく。	地域福祉課
			令和3年 4,508人 (県所管： 3,630人)		
権利擁護ネットワーク形成支援事業の実施	高齢者の虐待防止について、市町村における取組事例の情報交換、具体的な対応の報告・困難事例の検討会を実施し、各市町村の蓄積されたノウハウを共有化し、県下全体の対応力の向上を支援する。	研修会等開催回数 参加者数	令和4年 研修2回 計延228名	今後とも、市町村等の高齢者虐待防止の検討会等を開催し、県下全体の対応力の向上を支援していく。	高齢福祉課
			令和3年 研修1回 計51名		
老人クラブ活動への助成	【再掲】				高齢福祉課
「暮らしの安全ガイドブック」の作成	【再掲】				県民生活課
◇障がい者の安全確保					
「110番アプリシステム」及び「FAX110番」の実施	聴覚障がい者・音声機能障がい者専用の緊急通報手段として、スマホアプリ及びFAXによる受付をしている。	—	継続実施	聴覚障がい者・音声機能障がい者専用の緊急通報手段として、スマホアプリ及びFAXによる受付をしていく。	通信指令課
			継続実施		
福祉のまちづくりの推進	【再掲】				地域福祉課
地域福祉推進体制の整備	【再掲】				地域福祉課

【視点2】

障がい者支援体制の整備	「第3期岐阜県障がい者総合支援プラン」(R3～R5)に基づき、市町村域を超えた広域的な障がい者支援ネットワークとして設置している圏域障害者自立支援推進会議において、圏域内関係機関、市町村の連携による障がい者支援を推進する。	—	継続実施	令和3年3月に策定した「第3期岐阜県障がい者総合支援プラン」(R3～R5)に基づき、圏域障害者自立支援推進会議において、圏域ごとの課題を踏まえた障がい者支援を推進する。	障害福祉課
			継続実施		
「障がい者110番」の実施	常設の相談窓口を置き、障がい者又は家族等関係者からの、障がい者の人権及び権利の擁護に関する相談に対応して、必要な助言を行い、また内容に応じて弁護士等による相談チームを編成して相談にあたる。	相談件数	令和4年 131件	障がい者の人権及び権利の擁護の相談体制を構築していく。	障害福祉課
			令和3年 128件		

(3) 女性の安全確保

【取組の方向】

女性の安全の確保のため、地域ぐるみの取組を促進する。

痴漢などの性犯罪、ストーカー、DVなどの犯罪被害に遭いやすい女性の安全を確保し、地域において安全で安心して暮らすことができるよう、訪問活動、会合等様々な機会を活用して情報提供を行い、犯罪被害の未然防止を図ることが大切です。

また、地域におけるネットワークの構築を図るなど、身近な地域で助け合い、支え合う仕組みづくりも必要です。

このため、女性の安全を確保するための取組を進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
配偶者暴力等防止地域協議会等の開催	「岐阜県配偶者からの暴力防止及び被害保護等に関する基本計画(R1～R5)」に基づき、女性相談センターを中心に、自立支援や配偶者暴力等防止地域協議会等の開催による関係機関相互の連携促進を行う。	地域協議会 開催数	令和4年 5回	今後とも、会議の開催等により関係機関の連携を深めていく。	子ども家庭課
			令和3年 5回		
配偶者暴力相談支援センターの設置	女性相談センター並びに各県事務所福祉課を配偶者暴力相談支援センターとし、相談対応する。	相談件数	令和4年 1,228件	引き続き、相談対応していく。	子ども家庭課
			令和3年 1,418件		
DV被害者における一時保護の実施	女性相談センターや保護施設において、DV被害者の一時保護を行う。 また、夜間や休日など、上記施設での一時保護への移送が困難な場合に、各圏域の社会福祉施設に緊急に一時保護する。	保護件数	令和4年 86件	今後とも、被害者の状況に応じ、保護を実施していく。	子ども家庭課
			令和3年 75件		

【視点2】

ぎふ性暴力被害者支援センターの設置	性暴力被害にあわれた方の医療的、精神的、法的、経済的な支援を可能な限りワンストップで行うための相談窓口として「ぎふ性暴力被害者支援センター」を設置し、必要な情報提供や付き添い支援などを行う。	相談件数	令和4年 1,032件	引き続き、性暴力被害者への総合的な支援を行うとともに、被害の潜在化防止に取り組んでいく。	子ども家庭課
			令和3年 1,122件		
性犯罪被害者等への支援	「性犯罪捜査室」を刑事部捜査第一課に設置するとともに、性犯罪捜査を担当する性犯罪捜査員を各警察署に配置し、被害者の心情に配慮した捜査を行っている。 また、相談窓口として、「性犯罪被害者相談電話」を設置している。	性犯罪被害者相談電話 受理件数	令和4年 82件	被害者の心情に配慮して、被害者が希望する性別の性犯罪捜査員と被害者支援員が連携した対応を行う。 被害者の精神的負担の軽減、被害者支援等を目的とし、産婦人科医等の協力医との連携を推進する。各種相談窓口における助言、指導を行う。	広報県民課 捜査第一課
			令和3年 58件		
位置情報システムの整備	ストーカー事案、またはDV事案による被害者の安全を確保するため、緊急時に被害者が警察への通報と自分の位置情報を発信できる携帯端末を貸与する。	—	継続実施	今後とも、被害者の意思を踏まえ、支援に努めていく。	人身安全対策課
			継続実施		
「ストーカー110番」の設置	「つきまとい等」や「ストーカー行為」に悩む方の相談窓口を設置し、必要な情報提供、適切な相談機関の案内などを行う。	相談件数	令和4年 5件	今後とも、適切な相談、情報提供に努めていく。	人身安全対策課
			令和3年 22件		

【取組の方向】

地域の連帯を深め、地域コミュニティの再生を図るため、様々な取組を地域ぐるみで実施する。

安全・安心まちづくりを実現するためには、自主的な防犯活動ばかりではなく、地域の連帯を深め、地域コミュニティを再生することで、人と人とのつながり、顔の見える近所づきあいができるようにしていくことが大切です。

このため、地域においては、親睦活動（まつりやスポーツ大会、サークル活動など）や生活環境の美化活動などの地域共同活動を通じて、世帯の代表者だけでなく、子どもから大人まで住民一人ひとりが参加し、事業者、学校、行政、警察署などあらゆる機関とも連携・協力して、様々な取組を行っていけるように、支援していきます。

ア 地域のつながりの強化と環境美化活動

「破れ窓理論^{*}」により犯罪の少ないまちづくりにもつながる生活環境の美化活動（ゴミ拾い、落書き消し、不法投棄監視など）や、子どもたちの教育を地域の絆とする新しい地域コミュニティづくり（教育コミュニティづくり）などを通して、地域ぐるみの取組が進められるように支援を行うとともに、地域の絆づくりを総合的・重点的に推進し、犯罪の起きにくい地域づくり、地域コミュニティの再生につなげていきます。

破れ窓理論（割れ窓理論）

「破れ窓理論」は地域住民の安心感と警察への親近感を醸成することを目的として警察官の徒歩によるパトロールを実施した米国ニュージャージー州の取組をきっかけとして、1982年に米国で提唱された理論です。この理論は、従来まで軽微な犯罪とされていた行為（公共空間での落書き、酔っ払い、物乞い等）であっても、それがコミュニティの利益を大きく侵害するものであるならば、警察やコミュニティは真剣に考え、対策を講じなければならないとするものです。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
◇地域の絆づくりに向けた取組の推進					
ぎふ地域の絆づくり支援センターの設置	県民生活課内に「ぎふ地域の絆づくり支援センター」を設置し、専門員を1名配置。職員とともに市町村や地域団体を訪問するなどして意見交換を行い、地域の現状を把握するとともに、モデル事業成果の普及や地域が抱える課題の解決サポートを行う。併せて先進事例やアドバイザーとなる人材情報等を集積し、情報提供する。	活動件数	令和4年 訪問11件 来訪0件 電話26件	引き続き、地域の現状を把握し、地域のニーズに合ったきめ細やかな支援を行う。	県民生活課
			令和3年 訪問8件 来訪0件 電話31件		
地域の課題解決応援事業の実施	自治会等の地域活動団体、県内企業・事業所、県内の市町村を対象に、専門的な指導、助言を行うアドバイザー及びコーディネーターを派遣し、地域課題の解決に向けた支援を行う。	支援実績	令和4年 2団体 派遣2回	引き続き、地域のニーズに合った支援をコーディネートし、地域の課題解決力の向上を図る。	県民生活課
			令和3年 5団体 派遣5回		
地域活動人材養成事業の実施	自ら地域づくり活動を実践できる人材を養成する講座を開催する。	受講者数	令和4年 開催中止	類似する地域の課題解決応援事業と統合し、令和4年度で廃止とする。応援事業を通して地域づくり活動を支える人材養成等を行う。	県民生活課
			令和3年 開催中止		
地域福祉推進体制の整備	【再掲】				地域福祉課
◇生活環境の美化活動					
「県民環境の日」の普及促進	「県民環境の日」(毎月第2土曜日)を定め、県民等が環境についての関心と理解を深め、環境保全活動への意欲を高める。	—	継続実施	「県民環境の日」等に合わせ、環境学習の機会づくりを推進していく。	脱炭素社会推進課
			継続実施		
「清流月間」	「清流の国ぎふ」の実現に向け、毎年7月を「清流月間」として定め、県民の清流への関心と理解を深めるとともに、環境保全活動への参加意欲を高めることで、「清流の国ぎふ」の一層の実現を図る。	—	継続実施	清流を中心とする環境保全に関する様々な取組みを集中的に実施する。	脱炭素社会推進課
			継続実施		

「廃棄物インターネット110番」の設置	インターネットにより、広く県民等から不法投棄の情報を得る。	通報件数	令和4年 119件	廃棄物インターネット110番により、産業廃棄物不適正処理事案の早期発見、早期措置を図っていく。	廃棄物対策課
「ぎふ・ロード・プレーヤー」事業の実施	地域住民、地元企業、団体等の自発的なボランティア活動により、道路の一定区間を「自分たちの家族」として、愛着を持って清掃・除草などの維持管理活動を行っていただくことにより、住民参加型・協働型の道路維持管理を進める。 活動協力者には、必要な消耗品の提供やボランティア保険の加入などの支援を行うとともに、活動をアピールする表示板の設置を行う。	参加者数 (団体数)	令和4年 14,683人 (352団体) ※R4年度末実績	引き続き、住民参加型・協働型の道路維持管理を進めていく。	道路維持課
「清流の国ぎふリバーサポーター事業」の実施	令和4年4月1日から施行した「清流の国ぎふリバーサポーター事業実施要綱」に基づき、県が管理する一級河川において、地域住民、団体等が行う除草活動や河川美化活動、河川巡視活動を支援することで、住民参加型・協働型の河川管理を進める。	参加者数 (団体数)	令和4年 27,327人 (167団体)	今後とも、地域住民等民間ボランティアの活動を支援していく。	河川課
◇教育コミュニティづくり					
「地域のおじさんおばさん運動」の推進	【再掲】				私学振興・青少年課
「岐阜県放課後子ども総合プラン」の推進	【再掲】				環境生活政策課 子育て支援課
地域に開かれた学校づくりの推進	【再掲】				義務教育課

地域住民等の参画により学校と連携・協働活動を推進する仕組みの普及	各小学校区、中学校区において、地域のコーディネーター、ボランティアの人材を発掘・育成し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための体制を整備する。	—	継続実施	岐阜大学と連携して「ぎふ地域学校協働活動センター」を運営し、地域コーディネーター等の育成・確保を図るとともに、活動事例の調査研究や情報発信を実施することにより地域と学校が連携する仕組みを県内に広める。	環境生活政策課
			継続実施		
地域コーディネーター等の育成	地域住民の参画により学校と連携・協働活動を推進する仕組みを県内に広めるため、地域コーディネーター等の育成を行う。	研修会開催回数 研修会参加人数	令和4年 2回 延395人 令和3年 4回 延198人	令和5年度は「地域学校協働活動研修会」に名称変更して、資質向上のための研修を実施する。	環境生活政策課
「1家庭1ボランティア運動」	岐阜県道徳教育振興会議の提唱により、身近なところで行うことに進んで取り組む「1家庭1ボランティア運動」を県民運動として展開する。	振興会議開催数	令和4年 2回 令和3年 2回	各関係機関と連携を密にして啓発を図っていく。道徳教育啓発資料を作成し、具体的な実践例をもとに交流を促進する。	義務教育課

イ 地域と交番・警察署との連携強化

地域の交番、警察署が、地域住民と連携して地域の問題解決にあたるよう、交番、警察署からの情報提供の充実、地域住民との協議の場の設置を進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
交番・駐在所活動の充実	地域住民の「パトロール活動を強化して欲しい」「いつでも交番にいて欲しい」という二律相反する要望の高まりから、平成16年度以降、交番勤務員の増員と配置基準の見直し、交番・駐在所の統廃合、交番相談員(会計年度任用職員)の増員	交番相談員数	令和4年 110人	交番勤務員の配置基準の見直しや交番・駐在所の統廃合、交番相談員の効果的運用により、パトロールや立番等の強化を図るとともに、巡回連絡や交番速報等の広報	地域課

	等により、平成19年度には「空き交番」を解消するなど、パトロールや立番等の強化、巡回連絡や「交番速報」、「ミニ広報紙」を通じた情報提供の推進により、交番機能等の充実強化に努めている。 また、交番相談員については、小学校児童等の見守り活動等への支援も行っている。		令和3年 115人	紙を通じた情報提供の推進により、交番機能等の充実強化に努めている。	
交番・駐在所連絡協議会の開催	県下の交番・駐在所に設置された協議会で、地域住民と地域の治安に関する問題についての協議や、警察に対する意見・要望を把握することで、地域社会と協力して事件事故等の防止を図る。	交番数・ 駐在所数	97(11) ・131 ※括弧内は署所在地交番数	地域住民と地域の治安に関する問題についての協議や、警察に対する意見・要望を把握することで、地域社会と協力して事件事故等の防止を図っていく。	地域課
警察署協議会の開催	地域住民の意見・要望を警察署の業務運営に反映させるとともに、警察活動に対する理解と協力を得るために設置されている。 公安委員会から委嘱された各警察署の管轄区域内に居住または通勤する者が、会議や警察活動の視察を行うほか、年に一度各協議会の代表者が集まる警察署協議会代表者会議を開催する。	署協議会 開催数 委嘱者数	年4回 ×22警察署 178人	協議会委員については、ダイバーシティ(多様性社会)の観点から、女性委員の参画拡大、幅広い分野・年齢層からの選定を行い、引き続き創意工夫を凝らした協議会の運営に取り組むとともに会議概要等の公表により地域住民への周知を図っていく。	総務室総務課
			年4回 ×22警察署 179人		
		代表者会議 開催数	年1回 22人		
		代表者数	年1回 22人		

ウ 多文化共生の地域づくり

在住外国人も地域で暮らす住民の一人として位置づけ、安全で安心な生活のための情報提供等の充実を図りながら、地域活動への参画を促進することによる多文化共生の地域づくりを進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
生活情報等の提供	生活に関わる情報を多言語でホームページ((公財)岐阜県国際交流センター)に公開する。	—	インターネット上で公開	生活に関わる情報をまとめたホームページ((公財)岐阜県国際交	外国人活躍・共生社会推進課

				流センター) を更新する。	
岐阜県在住外国人相談センターの設置	国際交流センター内に、岐阜県在住外国人相談センターを設置し、相談員による多言語での相談対応に加え、電話通訳サービス(14言語)を介しての三者通話やスカイプを利用したオンラインでの相談対応を実施。また、多様な相談に対応するため、専門家と連携して、「弁護士相談」、「行政書士相談」、「カウンセラー(こころの)相談」、「名古屋出入国在留管理局職員による相談会」を実施。	相談件数	令和4年 1,075件	引き続き、相談員による多言語での相談対応に加え、外国人特有の文化や考え方に詳しい専門家と連携した相談体制を整備する。	外国人活躍・共生社会推進課
			令和3年 1,218件		
在住外国人行政相談員の設置	西濃及びび可茂県事務所に在住外国人行政相談員を配置し、多言語での相談対応を実施。	相談件数	令和4年 4,003件	引き続き、西濃及びび可茂県事務所に在住外国人行政相談員を配置し、多言語での相談対応を実施する。	外国人活躍・共生社会推進課
			令和3年 5,223件		
マニュアルを活用した防犯講習会などの実施	日本での習慣、モラル、犯罪被害防止対策などを母国語で記載のマニュアル、防犯広報用DVD(6カ国語対応)等を活用し、防犯講習会などを実施し、在住外国人の防犯意識の高揚を図る。	開催数 受講者	令和4年 24回 355人	引き続き、マニュアルを活用し、防犯講習会などを実施し、在住外国人の防犯意識の高揚を図っていく。	生活安全総務課
			令和3年 15回 156人		
外国人に対する交通安全教育	外国人に対する交通安全教育(交通講話、交通教室、自転車教室等)を実施する。	開催数 参加人数	135回 2,505人	引き続き、外国人に対する交通安全教育(交通講話、交通教室、自転車教室等)を実施していく。	交通企画課
			52回 619人		
外国人向け交通安全テキストの作成	外国人向けの交通安全テキストを多言語(英・中国・ポルトガル語)で作成し、インターネット上で公開する。	—	インターネット上で公開	引き続き、ホームページで公開していく。	県民生活課
外国人からの110番受理体制の整備	外国人からの110番通報に対応するため、英語で対応できる指定通訳員の配置などをする。	—	継続実施	英語で対応できる指定通訳員の配置などを図っていく。	通信指令課
			継続実施		

多文化共生社会の推進体制の整備（外国人県民会議の開催）	外国人県民のキーパーソンにご意見を伺い、外国人県民の意見を多文化共生推進施策に反映する。	外国人県民会議開催数 参加者	令和4年 1回 1人	引き続き、外国人県民のキーパーソンとの意見交換会（外国人県民会議）を開催するなど、外国人県民等の意見を多文化共生推進施策に活かすための取組を推進する。	外国人活躍・共生社会推進課
			令和3年 1回 6人		
多文化共生推進員の配置	外国人県民と県市町村との橋渡しを担う人材を「岐阜県多文化共生推進員」として委嘱し、推進員による外国人住民への行政情報などの提供、日本語教室、子どもの学習支援、国際交流イベントの開催などを通じ、地域における多文化共生を推進する。	設置人数	令和4年 31人	引き続き、多文化共生推進員等と連携し、多文化共生の地域づくりを推進する。	外国人活躍・共生社会推進課
			令和3年 33人		
多文化共生サロン等の開催	国際交流員等による異文化理解の促進や、多文化共生社会の実現に向けた意識啓発、外国人県民とのコミュニケーション能力向上を目的としたサロン等を開催。	多文化共生サロン開催数	令和4年 5回	引き続き、国際交流員等による異文化理解の促進や、多文化共生社会の実現に向けた意識啓発、外国人県民とのコミュニケーション能力向上を目的としたサロン等を開催する。	国際交流センター（国際交流課）
			令和3年 3回		
国際捜査官の育成と国際捜査官による外国人からの相談受理等の活動	多文化共生の推進を図るため、県内に居住する外国人に対応した語学力を有する国際捜査官の育成を図り、同捜査官による外国人からの各種相談や、犯罪被害の申告の円滑な受理を実施する。	開催数 参加人数	国際捜査官の育成 2名 (カカログ語)	外国人集住地域等の各種相談・被害状況を集約分析し、適切な措置・対策を講じるとともに、新規に2名の職員にタガログ語研修を受けさせ、国際捜査官の体制の充実を図っていく。	国際捜査課
			国際捜査官の育成 2名 (ベトナム語)		
在留外国人等対応業務専門職の配置	外国人居住者の多い地域を管轄する警察署に、在留外国人等対応業務専門職を配置し、外国人からの各種相談の受理や、防犯広報を実施。	配置人数	令和4年 加茂署 1名 可児署 1名	在留外国人等への対応業務を一層充実させ、地域住民共々、安心して快適に暮らすことのできる地域社会の実現を図っていく。R4追加	国際捜査課

視点4 犯罪の防止に配慮した生活環境づくり

(1) 住宅の整備

【取組の方向】

戸建住宅や長屋住宅、共同住宅における防犯対策を進める。

空き巣・忍込みなどの侵入盗や住居侵入、放火などの犯罪の防止を図るため、戸建住宅や長屋住宅、共同住宅（以下「住宅」という。）における防犯対策を進めることが大切です。

このため、県民一人ひとりの住宅に対する防犯意識の向上を図るとともに、住宅関連の事業者（建築業者、改修業者、設計業者、供給業者、共同住宅の所有者・管理者など）に対して、防犯性の高い住宅の普及を促進していきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
住宅の防犯指針の策定	住宅の防犯性を向上させるため、犯罪の防止に配慮した住宅の構造、設備等に関する指針を策定し、普及啓発を行う。	—	指針に基づく施策を実施	平成21年2月に策定した指針とその啓発用パンフレットを用いて、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。指針については、社会情勢の変化や防犯設備に関する技術開発の進展等を踏まえた見直しを行う。	県民生活課 建築指導課 住宅課 生活安全総務課
			指針に基づく施策を実施		
防犯性能の高い建物部品（CP部品）の普及促進	岐阜県防犯設備協会などの関係機関による防犯講習、広報などにより、防犯性能の高い建物部品の普及・促進を図るほか、住宅などに対する防犯診断を通じて、防犯性能の高い建物部品の普及・促進を図る。	—	継続実施	引き続き、岐阜県防犯設備協会との連携や住宅に対する防犯診断などにより、防犯性能の高い建物部品の普及・促進を図っていく。	生活安全総務課
			継続実施		
岐阜県防犯優良マンション制度の普及促進	平成20年4月から、住宅への侵入犯罪を未然に防止するため、(公財)岐阜県防犯協会において、要請のあった一定の防犯上の審査基準に適合しているマンションを「防犯	認定数	新規件数 R4年中1件 (総数10件)	今後とも、事業主体の(公財)岐阜県防犯協会をはじめ、関係機関等が一体となって、防犯優良マンション制度の普及	住宅課 生活安全総務課

	優良マンション」として認定する制度を開始し、県内のマンション・アパートの住宅環境面において、犯罪等に強い構造設備や防犯設備の促進を図る。		新規件数 R3年中0件 (総数9件)	促進を図っていく。	
警察官による防犯診断の実施	警察官が住宅等の防犯診断を実施し、防犯上の問題点及び改善方法等について、診断・指導を行う。	-	継続実施	2重・3重の防犯対策の必要性を指導し、県民の更なる防犯意識の向上を図る。	生活安全総務課
			継続実施		
防犯診断チェックシートの掲載	自分で確認できる防犯診断チェックシート(一般住宅用、アパートなどの共同住宅用、駐車場用)をインターネットで公開する。	-	HPに掲載	引き続き、自分で確認できる防犯診断チェックシートをインターネットで公開していく。	生活安全総務課
			HPに掲載		
放火予防情報の掲載	【再掲】				消防課

(2) 道路等の整備

【取組の方向】

道路、駐車場及び駐輪場、公園における防犯対策を進める。

ひったくりや車上ねらい、放火などの犯罪の防止を図るため、道路、駐車場及び駐輪場、公園（以下「道路等」という。）における防犯対策を進めることが大切です。

このため、道路等の設置者や管理者に対して、防犯性の高い道路等の普及を進めていきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
道路等の防犯指針の策定	道路等の防犯性を向上させるため、犯罪の防止に配慮した道路等の構造、設備等に関する指針を策定し、普及啓発を行う。	—	指針に基づく施策を実施	平成 21 年 2 月に策定した指針を、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。指針については、社会情勢の変化や防犯設備に関する技術開発の進展等を踏まえた見直しを行う。	県民生活課 道路建設課 道路維持課 都市政策課 都市整備課 建築指導課 住宅課 農地整備課 森林経営課 生活安全総務課 交通規制課
◇道路					
通学路等の歩道整備等の推進	【再掲】				農地整備課 道路維持課
交通安全施設等整備事業等の推進	公安委員会と道路管理者が連携し、事故実態の調査・分析を行いながら、交通環境の改善・事故防止を図る。	—	継続実施	今後とも、警察庁と国土交通省が指定する「交通事故危険箇所」を中心に交通環境の改善・事故防止を図っていく。	道路維持課 交通規制課
県民等と一体となった道路交通環境の整備の推進	道路を利用する人の視点を生かし、交通安全施設等の点検を積極的に推進し、道路交通環境の整備に反映させる。 また、新規道路の整備計画段階からも、積極的に県民等に参加した	—	継続実施	引き続き、住民協働型による道路整備、交通安全施設等の点検・整備に努めていく。	道路建設課 道路維持課 都市整備課 交通企画課 交通規制課
			継続実施		

	だく。				
農道・農業集落における安全対策の推進	農道の整備に際し、歩車道の分離や道路照明灯等の施設整備を推進する。	—	随時実施	地域の実情に併せ可能な限り整備していく。	農地整備課
			随時実施		
「防犯カメラの設置及び運用に関する留意事項」の作成	防犯目的のために市町村又は自治会等が設置する防犯カメラについて、適正な取り扱いに関する留意事項を作成し、周知啓発を行う。	—	随時実施	様々な機会を捉えて周知啓発を図っていく。	県民生活課
			随時実施		
防犯カメラ設置促進補助金事業	【再掲】				生活安全総務課
◇駐車場及び駐輪場					
駐車場等の整備	市町村が「駐車場整備地区の都市計画の決定」、「駐車場整備計画の策定」、「附置義務駐車場条例の制定」などを行う際に、防犯にも留意して検討するように、助言をする。	—	継続実施	引き続き、市町村が「駐車場整備地区の都市計画の決定」、「駐車場整備計画の策定」、「附置義務駐車場条例の制定」などを行う際には助言をする。	都市政策課
			継続実施		
重点駐輪場対策の実施	自転車盗が多発している駐輪場を「自転車盗防止重点駐輪場」に指定し、管理者等立ち会いによる防犯診断、防犯指導、駐輪場管理者に対するセミナーなどにより、防犯カメラや防犯灯の設置など、犯罪に強い駐輪場の環境づくりの促進を図るほか、自治体、防犯ボランティアなど関係機関等と連携を図り、自転車点検、駐輪場利用者に対する広報啓発などを実施する。	—	継続実施	引き続き、犯罪に強い駐輪場の環境づくりの促進を図るほか、自転車点検、駐輪場利用者に対する広報啓発などを実施していく。	生活安全総務課
			継続実施		
防犯カメラ設置促進補助金事業	【再掲】				生活安全総務課
放火予防情報の掲載	【再掲】				消防課

(3) 商業施設等の整備

【取組の方向】

コンビニエンスストアや深夜スーパー、ゲームセンター、カラオケ、インターネットカフェ、大型ショッピングセンター（ショッピングモール）などの施設における防犯対策を進める。

万引きや車上ねらい、放火などの犯罪の防止を図るため、また、青少年の健全育成の観点から、コンビニエンスストアや深夜スーパー、ゲームセンター、カラオケ、インターネットカフェ、大型ショッピングセンター（ショッピングモール）などの施設（以下「商業施設等」という。）における防犯対策を進めることが大切です。

このため、商業施設等の設置者や管理者、又は商業施設において営業を営む者に対し、防犯性の高い商業施設の普及を促進していきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
商業施設等の防犯指針の策定	商業施設等の防犯性を向上させるため、犯罪の防止に配慮した施設の構造、設備等に関する指針を策定し、普及啓発を行う。	—	指針に基づく施策を実施	平成21年2月に策定した指針を、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。指針については、社会情勢の変化や防犯設備に関する技術開発の進展等を踏まえた見直しを行う。	県民生活課 私学振興・青少年課 商工・エネルギー政策課 商業・金融課 建築指導課 住宅課 生活安全総務課 交通規制課
			指針に基づく施策を実施		
大型商業施設を営む事業者による地域貢献の促進	大型商業施設を営む事業者に対して、大規模小売店舗立地法等に基づく周辺地域の生活環境の適切な保全や、青少年非行防止など地域の課題やニーズに応じた対応への配慮を促すことで、施設事業者による自主的な対策を促進する。	—	継続実施	大型商業施設を営む事業者による地域貢献の促進について、様々な機会を捉えて普及啓発を図っていく。	商業・金融課
			継続実施		
商業施設等の事業者に対する暴力団排除にかかる援助	商業施設から暴対法第14条に定める不当要求行為を排除するため、事業者に対して定期的に責任者講習を開催するとともに、暴力団関	責任者選任の届出 責任者講習実施回数	責任者選任届 7,522件 責任者講習 28回 1,386人	既届出の施設に対して継続した支援を行うほか、同制度の広報に努め暴力団排除の気運を高	組織犯罪対策課

	係者に対する対応等に関し、支援を行う。		責任者選任届 7,813件 責任者講習 23回 1,150人	めていく。	
防火管理者への 教養	多数の人が出入りする建物の防火管理者に対して、防火管理業務を適切に行うために各消防本部で行われる講習の開催情報等をホームページ上に掲載し、受講を呼びかける。	—	随時更新	随時、掲載内容を更新し、防火責任者の講習受講を呼びかける。	消防課
			随時更新		
放火予防情報の 掲載	【再掲】				消防課

(4) 自動車等、自販機の防犯対策

【取組の方向】

自動車、原動機付自転車、自転車及び自動販売機に対する防犯対策を進める。

自動車盗や自転車盗、車上ねらい、部品ねらいなどの犯罪の防止を図るため、自動車等における防犯対策を進めることが大切です。

このため、県民一人ひとりの防犯意識の向上を図るとともに、自動車等の販売者に対し、犯罪の防止に配慮した自動車等及び防犯対策機器の普及を促進します。

また、自動販売機ねらいなどの犯罪の防止を図るため、自動販売機の設置者、管理者に対し、犯罪の防止に配慮した設備を有する自動販売機の設置を促進するとともに、自動販売機のつり銭の適正な管理など必要な措置を講じていただけるよう普及していきます。

取組・施策項目	その概要	確認指標	R4実績	R5の取組方針	担当課
			R3実績		
オートバイ・自転車の防犯登録の促進	(公財)岐阜県防犯協会・岐阜県自転車軽自動車商協同組合と連携し、自転車・オートバイの防犯登録の普及・促進を図る。	-	継続実施	引き続き、(公財)岐阜県防犯協会・岐阜県自転車軽自動車商協同組合と連携し、自転車・オートバイの防犯登録の普及・促進を図っていく。	生活安全総務課
			継続実施		
重点駐輪場対策の実施	【再掲】				生活安全総務課